

令和3年度地方消費者行政に関する先進的モデル事業
栄養士・地元企業・健康アプリと連携して行う、
栄養成分表示を活用した健康促進事業

実施報告書

令和4年2月
株式会社 RD サポート

目次

I. 事業概要	3
1. 背景と目的	3
2. 事業内容	3
(1) 栄養成分表示に関する動画プログラムの作成	3
(2) 動画プログラムを活用したセミナーの実施	3
(3) セミナー参加者及び動画視聴者（健康アプリ利用者）向け アンケート調査の実施	4
3. 全体スケジュール	5
II. 成果物および実施内容詳細	6
1. 動画プログラム	6
(1) 動画プログラムの目的	6
(2) 動画プログラムのコンセプト	6
(3) 各動画プログラムを通した認知度や理解度に関する目標	6
(4) 動画プログラムの作成の工夫点	7
2. 動画プログラムを活用したセミナーの実施状況	9
(1) セミナー実施時の準備及び成果物	9
(2) 医療施設等における患者及び利用者に対する 普及啓発モデルの検証	10
① 栄養ケア・ステーションからふる（大阪府）	10
② 東小金井さくらクリニック、デイケアこきん（東京都）	11
(3) スーパーマーケットにおける利用者に対する 普及啓発モデルの検証	13
① 株式会社マルト（福島県）	13
(4) 企業における従業員に対する普及啓発モデルの検証	14
① ウエルシア薬局株式会社（全国）	14
(5) その他の施設等における普及啓発モデルの検証	16
① 所沢ハートセンター（埼玉県）	16
(6) 健康アプリにおける利用者に対する普及啓発モデルの検証	17
① カロママ（iphone／Android）	17
(7) 実地・オンライン開催セミナーに関する全体考察	20
3. セミナー参加者のアンケート結果	21
(1) アンケート調査票詳細（受講前／受講直後／受講1週間後）	21
(2) アンケート調査結果詳細	28
III. 本事業全体考察	42

I. 事業概要

1. 背景と目的

平成 27 年 4 月 1 日に食品表示法が施行され、容器包装に入れられた加工食品には栄養成分表示として、熱量、たんぱく質、脂質、炭水化物、ナトリウム（食塩相当量で表示）が必ず表示されることになっている。これらの 5 つの項目は、生命の維持に不可欠であるとともに、日本人の主要な生活習慣病と深く関わっており、栄養成分表示は、健康づくりに役立つ重要な情報源である。

消費者庁の実施した令和 2 年度食品表示に関する消費者意向調査において、食品に栄養成分表示がされていることを知っている者の割合は、71.9% であった。その上で、食品購入時など、ふだんの食生活において栄養成分表示を「いつも参考にしている」と回答した者の割合は 17.2% であった。この結果を踏まえ、本事業では、地元企業や地域密着型の医療機関、地域で活躍する管理栄養士・栄養士、AI 健康管理アプリケーション「カロママ」（以下「健康アプリ」と言う。）との連携を図り、動画プログラムにより消費者が栄養成分表示を知ってもらい、ふだんの食生活における食品選択の場面で有効に活用している者を増やすことを目的とした。

2. 事業内容

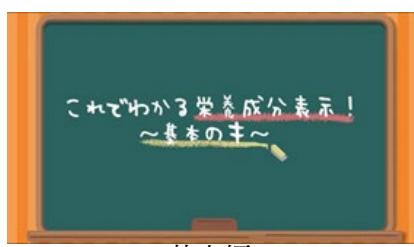
（1）栄養成分表示に関する動画プログラムの作成

消費者に対して「栄養成分表示を正しく知ってもらうこと」を目的とし、栄養成分表示の概要や活用方法がわかる動画プログラムを 3 本作成した。

＜動画プログラムのタイトル＞

- ① 基本編 「これでわかる栄養成分表示！～基本のキ～」（9分48秒）
- ② 目的別編 A 「今日からスタート 栄養成分表示を使って減塩ライフ」（6分26秒）
- ③ 目的別編 B 「体重や体型が気になる方に！栄養成分表示の活用術」（6分33秒）

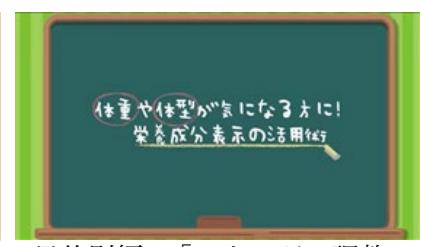
◆制作した動画プログラム 3 種



＜基本編＞



＜目的別編 A「減塩」＞

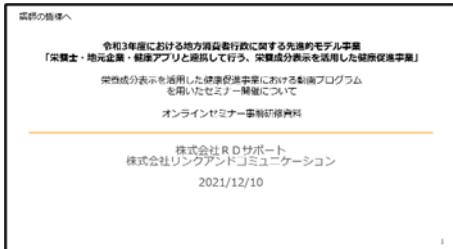


＜目的別編 B「エネルギー調整」＞

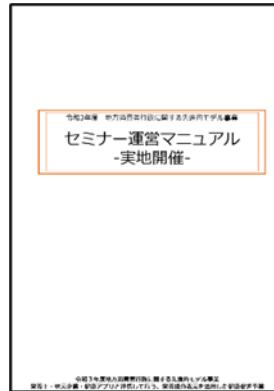
（2）動画プログラムを活用したセミナーの実施

本事業では、作成した動画プログラムの視聴と管理栄養士・栄養士を講師とした栄養成分表示を活用するための講義と合わせたセミナーを実施した。なお、セミナーの開催準備のために、セミナーの講師向け事前研修会を実施した。セミナーは実地またはオンライン（ウェブ会議システムを活用）での開催とした。セミナーの実施回数は、オンラインでの開催が 9 回、実地での開催が 2 回の合計 11 回となった。

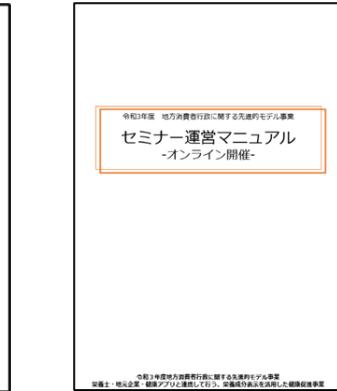
◆セミナー開催のための事前資料類



<講師と使った事前研修資料>



<関係者用のセミナー運営マニュアル 2種>



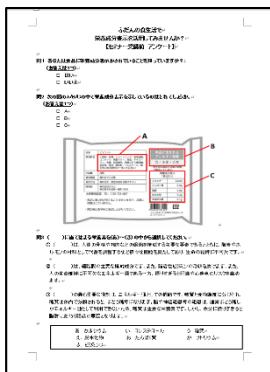
(3) セミナー参加者及び動画視聴者（健康アプリ利用者）向けアンケート調査の実施

セミナー参加者及び健康アプリ上での動画視聴者に対して、セミナーの受講または健康アプリ上での動画視聴前・直後、1週間後の合計3回のアンケート調査を実施した。

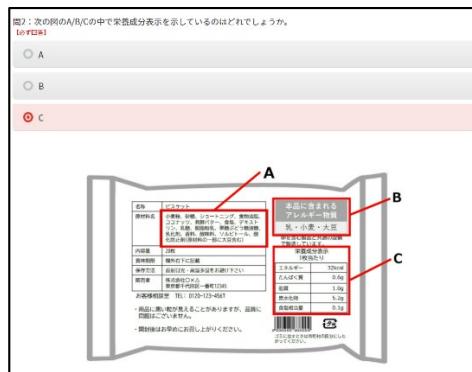
セミナーの受講または健康アプリ上での動画視聴前アンケートでは、セミナー参加者及び動画視聴者の理解度や食習慣の改善意識を事前に把握した。セミナーの受講または健康アプリ上での動画視聴直後アンケートでは、動画プログラムにより理解度が変化するのかを確認した。セミナーの受講または健康アプリ上での動画視聴1週間後アンケートでは、セミナー参加者及び動画視聴者が買い物をする際に栄養成分表示を意識するようになったか、行動が変わったのかを検証するために実施した。

なお、セミナー参加者へのアンケート調査は、実地での開催では紙の調査票用紙、オンラインでの開催ではインターネットによるアンケート回答サービスを使用した。また、健康アプリ上での動画視聴者については、インターネットによるアンケート回答サービスを使用した。

◆アンケート調査票



<紙の調査票用紙>



<インターネットによる調査票>

3. 全体スケジュール

本事業では、項目毎に年間作業の実施スケジュールを計画し、進捗管理を行った。

		2021年							2022年	
		6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月
動画作成	テーマ設定									
	シナリオ作成									
	動画作成									
セミナー準備	講師、集客の協力先確保									
	セミナー開催準備 (マニュアル作成など)									
	講師、スタッフ事前研修									
	セミナー集客									
	セミナー開催									
アンケート	アンケート設計									
	アンケート回収									
	アンケート集計									
報告書	報告書作成・納品									

<実施スケジュール（計画）>

		2021年							2022年	
		6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月
動画作成	テーマ設定									
	シナリオ作成									
	動画作成									
セミナー準備	講師、集客の協力先確保									
	セミナー開催準備 (マニュアル作成など)									
	講師、スタッフ事前研修									
	セミナー集客									
	セミナー開催									
アンケート	アンケート設計									
	アンケート回収									
	アンケート集計									
報告書	報告書作成・納品									

<実施スケジュール（実績）>

利害関係者との調整に時間を要したため、計画段階から実施スケジュールの変更はあったが、動画プログラムの作成から普及啓発モデルの検証までを予定どおり遂行した。

II. 成果物及び実施内容詳細

1. 動画プログラム

(1) 動画プログラムの目的

本事業では、地元企業や地域密着型の医療機関、地域で活躍する管理栄養士・栄養士、健康アプリとの連携を図り、動画プログラムにより消費者が栄養成分表示を知ってもらい、ふだんの食生活における食品選択の場面で有効に活用している者を増やすことを目的とした。

(2) 動画プログラムのコンセプト

消費者に「栄養成分表示を正しく知ってもらうこと」を達成するために、栄養成分表示の概要がわかる基本編の動画プログラムを作成した。更に、消費者ニーズや国の栄養関連施策との連携を意識した目的別編を作成し、「ふだんの食生活における食品選択の場面で栄養成分表示を有効に活用している者を増やすこと」も目的とした。この目的別編の内容は、①栄養成分表示が一般用加工食品において義務表示であること、②健康日本21（第二次）栄養・食生活の改善に関する目標設定がされていること、③厚生労働省が実施した平成27年度国民健康・栄養調査において、食品を購入する際の参考として必要だと思う栄養成分表示は、「食塩相当量」が男性17.9%、女性32.1%、「エネルギー」が男性35.0%、女性50.4%であったこと等から、減塩とエネルギー調整とした。

なお、動画プログラムの内容については、消費者が関心期から準備期への移行を意識した目標設定とし、動画プログラムのキャラクターとして登場する世代は、健康な成人をターゲットとして、幅広い世代に訴求するように若い世代の男女（20～30歳代）と働き盛り世代の男性（40～50歳代）とした。

(3) 各動画プログラムを通した認知度や理解度に関する目標

基本編 「栄養成分表示の基本」（全世代向け）

（目標）栄養成分表示について理解する。

- ①食品表示のうち、どの部分が栄養成分表示に該当するかを知っている。
- ②義務表示事項（エネルギー、たんぱく質、脂質、炭水化物、食塩相当量）を知っている。
- ③エネルギー、たんぱく質、脂質、炭水化物、食塩相当量の働きを知っている。
- ④栄養成分表示の単位を意識して、食品を選択することができる。

目的別編A 「減塩」（20～30歳代の若い世代向け）

（目標）栄養成分表示を活用した減塩のポイントを理解する。

- ①食塩の摂り過ぎが高血圧などの生活習慣病と関連することを知っている。
- ②成人の1日あたりの食塩の目標量（男性7.5g未満、女性6.5g未満）を知っている。
- ③日本人は食塩摂取量が目標量を超えていることを知っている。
- ④食塩相当量の低い加工食品を選択することができる。
- ⑤食塩の摂取源となる加工食品を知っている。

目的別編B 「エネルギー調整」（40～50歳代の働き盛り世代向け）

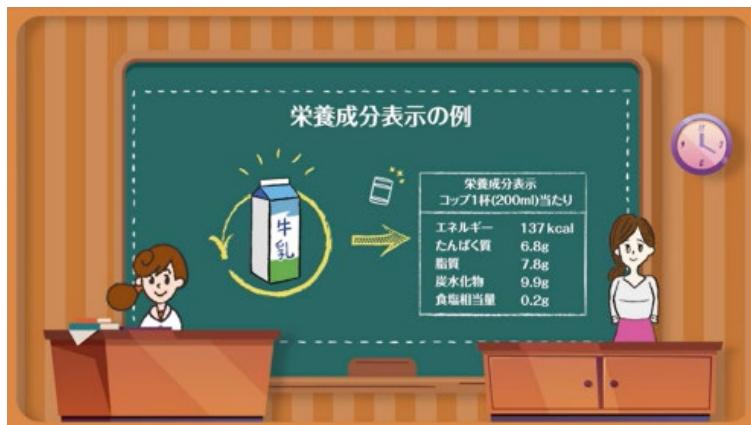
（目標）栄養成分表示を活用したエネルギー調整のポイントを理解する。

- ①体重にはエネルギー摂取量と消費量のバランスが関係することを知っている。

- ②栄養成分表示を確認して、間食からエネルギー摂取量を意識することができる。
- ③たんぱく質、脂質、炭水化物は、重量当たりのエネルギー量が異なることを知っている。
- ④同じ重量であっても、脂質の多い食品はエネルギー量が多いことを知っている。

(4) 動画プログラム作成の工夫点

- ①学校の授業をイメージした親しみやすさを表現した。



<動画プログラムの基本背景、登場人物の紹介>

動画プログラムの全体イメージとして、どのような世代の人も違和感なく動画プログラムの世界観に入り込めるように、学校をイメージした。先生役のキャラクターが、質問者の疑問に答えながら栄養成分表示について教える構成とした。

- ②動画プログラムの冒頭で多くの人に共感できる問い合わせを実施した。



<動画プログラムを視聴する者の興味や注意を惹きつける導入部分>

全ての動画プログラムの冒頭に、視聴する者が共感できる「つかみ」を用意し、視聴している者を引き込む工夫をした。この「つかみ」は、視聴する者が栄養成分表示を活用する場面を身近に思い浮かべることを想定し、問い合わせる形式にした。

- ③栄養成分表示をわかりやすく解説した。



<栄養成分表示の食品単位当たりの考え方を説明>

栄養成分表示の説明は、できるだけわかりやすく、丁寧に説明を加えるようにした。図表やアニメーションには、随所に効果音なども活用し、視聴する者を飽きさせない工夫をした。



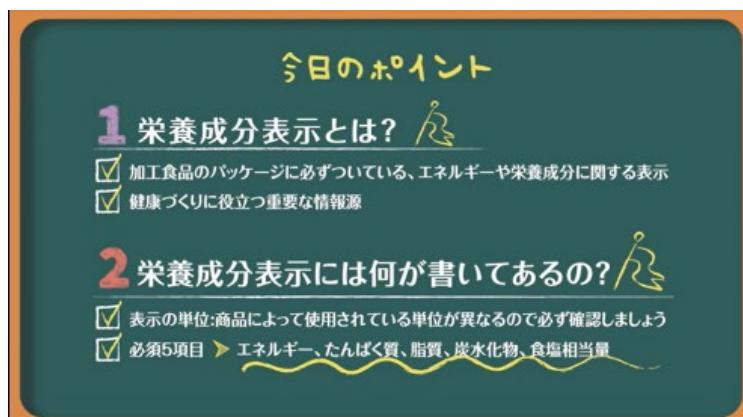
<栄養成分表示の義務表示事項の説明>

④ふだんの食品選択場面で、取り組める内容について紹介した。



<実生活で栄養成分表示を活用する例を紹介>

⑤動画プログラムの締めくくりに、伝えたい内容を「今日のポイント」として示した。



<各動画プログラムで伝えたいポイントをまとめて紹介>

その他に、基本編、目的別編は連続した内容ではないため、どの動画プログラムから見ても伝わりやすいように構成しており、視聴する者の目的に合わせて活用することができるようとした。また留意点として、視聴媒体によるが、スマートフォン等の小型電子機器で再生する場合は、文字の大きさが小さく読みづらい可能性があるため、視聴媒体は視聴する者の特性に合わせて調整した方がよい。

エネルギーや栄養成分の働きの説明などは、できるだけ難しい言葉を避けて、多くの人にわかりやすい言葉で理解できるよう、平易な言葉で丁寧に説明した。

動画プログラムの後半では、ふだんの食品購入において栄養成分表示を活用してもらうための工夫点を盛り込んだ。この場面では「最近、健康診断で高血圧と言われてしまった。」という場面を想定して、食塩相当量の少ない弁当を選ぶポイントを説明した。

2. 動画プログラムを活用したセミナーの実施状況

(1) セミナー実施時の準備及び成果物

実地またはオンラインでのセミナーの事前準備として、以下の3点を実施した。

①セミナー運営の標準化を図るための準備

実施またはオンラインでの開催用に、セミナーの講師向け研修資料、講師講演資料、運営スタッフ向けセミナー運営マニュアルを作成した（別添資料参照）。

②セミナーの講師向け事前研修、オンラインでの開催のためのリハーサル

地元企業や地域密着型の医療機関、地域で活躍する管理栄養士・栄養士に講師を依頼した。それぞれの専門性を活かした講義を依頼するとともに、栄養成分表示に関する情報提供や栄養成分表示を活用した食品選択場面の想定について、本事業の目的をイメージするために事前に研修会を実施した。また、ウェブ会議システムを活用したオンラインでのセミナーは徐々にその実施が広がってきているものの、まだ不慣れなセミナー参加者や講師が多数いることも想定されるため、セミナー2週間前に、オンラインでのセミナーを担当する講師に対して質疑応答やシステム操作のリハーサルを含めた準備期間を設けた。

※参加者が集まらず未実施

施設名	事前研修会		セミナー当日		
	事前研修会の日程	参加者(人数)	セミナー実施日	講師(人数)	参加予定(人数)
栄養ケア・ステーション からふる	2021年12月20日	2	2022年1月11日	1	100
			2022年1月13日	1	
			2022年1月19日	0※	
	2021年12月24日	2	2022年1月17日	1	
			2022年1月21日	0※	
東小金井さくらクリニック、 ディケアこきん	2021年12月23日	1	2022年1月19日	1	30
			2022年1月20日	1	
株式会社マルト	2021年12月21日	2	2022年1月18日	1	60
			2022年1月20日	1	
ウエルシア薬局株式会社	2021年12月24日	1	2022年1月14日	1	60
			2022年1月18日	1	
			2022年1月18日	1	10
所沢ハートセンター			2022年1月21日	1	

<事前研修会への参加人数とセミナー開催予定>

③セミナー参加者によるセミナーの受講前・直後、受講1週間後の認知度や理解度の変化を検証するためのアンケート調査

セミナーの構成は、動画プログラムの視聴、講義、アンケート調査の実施とした。アンケート調査は、セミナーの受講前、直後、1週間後とし、合計3回アンケート調査を実施した。

各セミナーの申し込みは、インターネット（実施開催のみ電話でも対応可能とした。）で行い参加希望者を募った。アンケート調査票の回答率を上げるために、セミナーの前日及び実施日に、アンケート調査票への回答を促すメールを送信した。セミナーの終了後、セミナー参加者が受講直後アンケートに回答しやすいように、セミナー参加者の視聴媒体（パソコンやスマートフォン等）に2次元バーコードを表示し、2次元バーコードからアンケート調査回答のウェブサイトへ移動しやすいよう工夫した。セミナーの受講1週間後アンケートは、セミナーの実施から3日後にメールでアンケート調査回答のためのURLを案内した。セミナーの受講1週間後のアンケート調査は、回収率が大幅に低くなる可能性があったため、このアンケート調査への回答がない場合は、回答につながるようにメールでの回答依頼を行った。

(2) 医療施設等における患者及び利用者に対する普及啓発モデルの検証

① 栄養ケア・ステーションからふる（大阪府）

実施先名	栄養ケア・ステーションからふる（大阪府）
背景	認定栄養ケア・ステーションからふるは、大阪の南河内地域を活動の拠点とする機能強化型認定栄養ケア・ステーションであり、医療・介護連携のもと、訪問栄養指導を中心とした活動を行っている。また、訪問栄養指導において重篤な利用者を多数ケアしてきた実績がある。一方で、介護を必要としない健康な地域住民に対し、栄養指導や介護予防の機会を提供できる場が少なく、課題の一つであった。
想定する対象者	食や栄養に关心や課題がある一般消費者
方法	<p>対象者:大阪市周辺の一般住民</p> <p>実施内容</p> <p>「基本編」「目的別編（減塩／エネルギー調整）」の視聴と管理栄養士による講義を組み合わせて実施した。管理栄養士による講義では、セミナー参加者と質疑応答などの相互にコミュニケーションを取ることで、栄養成分表示の活用方法への関心や理解度を高めるための工夫を行った。また、セミナー参加者の集中力の持続や参加意識を高めるため、司会担当者からセミナー参加者に対する簡単なアンケート（ウェブ会議システムのツールの機能を使用）を行うなどの工夫を行った。</p> <p>開催日程</p> <ul style="list-style-type: none"> セミナーの実施日時（オンラインでの開催）： 2022年1月11日（火）11:00～11:50 2022年1月13日（木）13:00～13:50 2022年1月17日（月）19:00～19:50 セミナーの実施日時（実地での開催）（中止*）： 2022年1月19日（水）11:00～11:50 2022年1月21日（金）19:00～19:50 <p>※実地での開催は、全日程において参加希望者がいなかったため中止した。</p> <p>対象者の集客方法</p> <p>セミナーの宣伝は、本事業の目的に賛同した企業からのチラシ配布や、健康アプリを通して大阪府在中の健康アプリの利用者にセミナーの案内を行った。</p> <p>参加申し込みの方法</p> <p>参加申込は、オンライン開催はウェブ申込みのみとし、実地開催は、ウェブ申し込みに加えて電話申し込みによる受付も行った。</p>

セミナー参加者数 とアンケート結果	<ul style="list-style-type: none"> セミナー参加者数 39名 アンケート回収数（回収率） 受講前アンケート 39名（100%） 受講直後アンケート 30名（約77%） 受講1週間後アンケート 18名（約46%）
施設及び対象者か らのコメント	<p>施設から</p> <p>動画プログラムやセミナーの構成、運営体制については高評価得た。「動画プロ グラムを介護予防教室や学校の授業で活用したい」という意見が寄せられた。</p> <p>対象者から</p> <p>「栄養成分表示で砂糖の量はどこを見ればわかるのか？」とセミナー参加者 から意欲的な質問がいくつもあった。</p>
考察	<ul style="list-style-type: none"> ウェブ会議システムの挙手機能を使って講師とセミナー参加者の相互コ ミュニケーションがとれるよう手配したところ、この挙手機能を使って講師へリア クションしたセミナー参加者が多く、オンラインでの開催であってもコ ミュニケーションを取ることはおおむね可能であった。

② 東小金井さくらクリニック、デイケアこきん（東京都）

実施先名	「東小金井さくらクリニック デイケアこきん」（東京都）
背景	<p>東小金井さくらクリニックに併設されるデイケアこきんは、通所型リハビリ テーション施設である。通所リハビリテーションでは、理学療法士、作業療法士、言語聴覚士による個別訓練が行われ、一人ひとりの体力に合わせたプログラ ムリハビリテーションサービスを提供している。</p> <p>この施設の通所者は、高齢者の割合が高く、食事摂取量の不足による食欲不振 や体重減少の問題やフレイル・サルコペニアの問題もあった。ふだんの食生活で 加工食品を摂取する通所者もいたため、食品選択から食生活の改善のためのア プローチが必要であった。</p>
想定する対象者	デイケア通所者
方法	<p>対象者：60代以上、デイケア通所者</p> <p>実施内容</p> <p>「基本編」の視聴と管理栄養士による講義を組み合わせて実施した。管理栄養 士による講義では、通所者が理解しやすいようにゆっくりと丁寧なコ ミュニケーションを取り、食品サンプルを実際に見せながら、栄養成分表示の記載場所を 確認する等の工夫を行った。</p>

	<p>開催日程</p> <ul style="list-style-type: none"> セミナーの実施日時（実地での開催） 2022年1月19日（水）14：00～15：00 2022年1月20日（木）10：00～11：00 <p>対象者の集客方法：施設の職員を通じて通所者に参加を呼び掛けた。</p> <p>参加申し込みの方法</p> <p>「通所者を対象としたセミナー」という位置付けとしたため、個別の申し込みは実施しなかった。セミナーの当日に、デイケアに通所していた通所者に対して、施設の職員が声をかけて参加する方式とした。</p> <p>アンケート調査</p> <p>アンケート回答者は高齢者が多数を占め、セミナーの時間内にアンケート記入を実施することは難しく、セミナーの受講前、受講直後、1週間後のアンケート記入・回収は、施設の職員のサポートを得て実施した。</p>
セミナー参加者数とアンケート結果	<ul style="list-style-type: none"> セミナー参加者数 20名 アンケート回収数（回収率） 受講前アンケート 18名（約90%） 受講直後アンケート 0名（0%） 受講1週間後アンケート 0名（0%）
施設及び対象者からのコメント	<p>施設から</p> <p>デイケア通所では取り上げににくい栄養成分表示を学ぶ機会ができ良かった。</p> <p>対象者から</p> <p>セミナーの終了後に質問をしたい参加者がおり講師が対応した。質問をしたセミナー参加者からは、「ふだん自分が買い物に行く際に、栄養成分表示にも目を向けるが文字が小さくなかなか読めない。数量表示がまちまちであるとは知らず大変勉強になった。医師から減塩の指導を受けているので、今後食品を購入する際に気をつけたい。」、「自分が料理をしていた現役時代には、栄養成分表示がなく、この表示自体を全く知らなかった。」とコメントがあった。</p> <p>また、「動画プログラムの中の文字や資料の文字が小さくて見えにくい。」というコメントもあった。</p>
考察	<ul style="list-style-type: none"> セミナー参加者の知識の習得は前向きで「勉強をしよう」と意欲であった。セミナー参加者の中には、メモを持参して熱心にメモをとる方も多く、今回のように「情報提供の機会」の場を設けることで、栄養成分表示の普及啓発につながると考えられた。

	<ul style="list-style-type: none"> ・動画プログラム内の文字や資料の文字の大きさは、普及啓発を行う前に、対象者に合わせた調整が必要である。 ・普及啓発モデルの検証のためアンケート調査を実施したが、アンケート調査票への記入や回収に、サポートを必要とするセミナー参加者が多かったため、動画プログラムの利活用の目的や対象者の特性に応じた柔軟な対応が求められる。
--	--

(3) スーパーマーケットにおける利用者に対する普及啓発モデルの検証

① 株式会社マルト（福島県）

実施先名	株式会社マルト（福島県）
背景	<p>スーパー「マルト」は、福島県いわき市を中心に展開する食品スーパーであり、地域密着型のスーパーとして近隣に住む地域住民に利用されている。30～60代を中心に幅広い世代が利用しており、メンバーカードとして高齢者の割合が高い。</p> <p>各店舗では、株式会社マルト所属の管理栄養士が中心となって、体組成計による体重などの測定、食事の栄養バランス診断や対面の食事相談、健康レシピや食生活改善等に関するパンフレットの配布を行っている。株式会社マルトでは、食事や健康に関する施策を実施しており、地域住民の健康づくりを積極的に支援している。過去に、株式会社マルトで行った施策では、1日約50人が参加したイベントの実績があり、食生活の改善に意欲的な消費者が多く利用している。</p>
想定する対象者	主に40代以上の主婦（高齢者比率が比較的高い）
方法	<p>対象者: 「マルト」を利用している福島県いわき市周辺の一般住民</p> <p>実施内容</p> <p>「基本編」「目的別編（減塩／エネルギー調整）」の視聴と管理栄養士による講義を組み合わせて実施した。管理栄養士による講義では、実際にマルト店頭で販売している商品を例にあげながら、具体的な減塩、エネルギーの調整方法の解説を行った。また、セミナー参加者の集中力の持続や参加意識を高めるため、司会担当者からセミナー参加者に対する簡単なアンケート（ウェブ会議システムのツールの機能を使用）を行う工夫を行った。</p> <p>開催日程</p> <ul style="list-style-type: none"> ・セミナーの実施日時（オンラインでの開催）: 2022年1月18日（火）14：00～14：50 2022年1月20日（木）13：00～13：50

	<p>対象者の集客方法</p> <p>店舗内でのちらし配布、店舗独自のアプリケーションやLINEからの告知、マルト会員の利用実績のある健康アプリから告知を行った。</p> <p>参加申し込みの方法：インターネット申込みで対応した。</p>
参加者数とアンケート結果	<ul style="list-style-type: none"> セミナー参加者数 15名 アンケート回収数（回収率） <p>受講前アンケート 15名（100%） 受講直後アンケート 15名（100%） 受講1週間後アンケート 10名（67%）</p>
施設及び対象者からのコメント	<p>施設から</p> <p>年末年始の繁忙期と重なり、準備が十分ではなかったが、動画プログラムの振り返りができる講義資料があったことで、当日の講義をスムーズに行うことができよかったです。</p> <p>対象者から：ダイエットや糖質に関する質問が多く寄せられた。</p>
考察	<ul style="list-style-type: none"> メインユーザー層である高齢者の割合は少なかった。高齢者にも親しみやすいセミナーの宣伝等の工夫が必要と考えられた。 スーパーマーケットには、イートインコーナー等の栄養成分表示の実地でのセミナーの開催に適した場所が多いことから、今後は、店舗内のフリースペースを利用したセミナーによる普及啓発も考えられた。更に、店舗独自のアプリケーションによる動画プログラムの配信や店頭モニターでの連続再生を行うことで、栄養成分表示の普及啓発の幅が広がるのではないかと考えられた。

（4）企業における従業員に対する普及啓発モデルの検証

① ウエルシア薬局株式会社（全国）

実施先名	ウエルシア薬局株式会社
背景	<p>全国でドラッグストア事業、調剤薬局事業を展開するウエルシア薬局株式会社は、商品の供給だけでなく行政や医療機関と連携して、地域住民に対する相談窓口機能としての「専門総合店舗」を目指している。また、地域の交流の場としてだれでも参加できるカフェの設置や社会福祉協議会、社会福祉法人等と共同で健康関連のセミナーを実施し、地域とつながり、地域の活性化を目指した活動にも携わっている。</p> <p>一方で、自社の従業員とその家族の健康増進を目的とするヘルスリテラシー向上させる活動も積極的に進めている。さらに、食事や食生活、栄養成分表示への関心が高く、顧客の相談を受ける際に、従業員が幅広く知識を取得していることが求められており、従業員の顧客対応能力の向上にも尽力している。</p>

想定する対象者	20～50代のドラッグストアの従業員
方法	<p>対象者</p> <p>20～50代の従業員及びその指導を行うマネージャー、ヘルスケア推進担当者等</p> <p>実施内容</p> <p>「基本編」「目的別編（減塩／エネルギー調整）」の視聴と管理栄養士による講義を組み合わせて実施した。セミナー参加者の集中力の持続や参加意識を高めるため、司会担当者からセミナー参加者に対する簡単なアンケート（ウェブ会議システムのツールの機能を使用）を実施した。さらに、講師から、店舗従業員が店頭で顧客からよく受ける質問を例にとり、質問への考え方や話の聞き方についてアドバイスを行った。</p> <p>開催日程</p> <ul style="list-style-type: none"> セミナーの実施日時（オンラインでの開催） <p>2022年1月14日（金）15：00～15：50</p> <p>2022年1月18日（火）15：00～15：50</p> <p>対象者の集客方法：企業の広報担当者より、全国の従業員に対して周知した。</p> <p>参加申し込みの方法：企業の広報担当者がセミナー参加者を取りまとめた。</p>
参加者数とアンケート結果	<ul style="list-style-type: none"> セミナー参加者数 75名 アンケート回収数（回収率） <p>受講前アンケート 88名（117%）※</p> <p>受講直後アンケート 70名（93%）</p> <p>受講1週間後アンケート 46名（61%）</p> <p>※受講前アンケートのみ参加した人が多かったため。</p>
施設及び対象者からのコメント	<p>施設から</p> <p>「自社従業員の健康増進」と「顧客に対するサービス向上」に繋がり、栄養成分表示への理解が進んだとコメントがあった。意欲の高い従業員が多く参加した。</p> <p>対象者から</p> <p>「顧客からの質問」に対し、栄養成分表示の活用事例を聞くことができて日々の業務に活かせるとコメントがあった。その他にも、質問の中心は「顧客からの相談に対する対応方法についてアドバイスが欲しい」という内容が多かった。例</p>

	えば、「痩せたい」などの断片的な相談に対してどのように回答したらよいか、という質問に、講師より栄養成分表示を活用した説明方法をアドバイスした。
考察	・ヘルスケア関連や流通関連などの食品関連事業者に対して、栄養成分表示の普及啓発を実施することは、単に食品関連事業者だけではなく、消費者への普及啓発にも繋がる可能性が期待できる。

(5) その他の施設等における普及啓発モデルの検証

① 所沢ハートセンター（埼玉県）

実施先	医療法人社団桜友会 心臓血管治療施設 所沢ハートセンター（埼玉県）
背景	<p>所沢ハートセンターは、狭心症・心筋梗塞・心不全・不整脈などの循環器疾患を専門とした医療機関で、医薬品・食料品の治験、臨床試験も実施している。</p> <p>治験、臨床試験に参加する被験者の健康状態や栄養状態を維持することはクリニックにとって重要なポイントである。被験者は一般的に年齢、性別、職業、生活のバックグラウンドが類型化できないため、被験者の食生活改善を促すアプローチ方法を検討していた。</p>
想定する対象者	20～60代の臨床試験の被験者
方法	<p>対象者： 20～60代の臨床試験の被験者</p> <p>実施内容</p> <p>「基本編」の視聴と管理栄養士による講義を組み合わせて実施した。管理栄養士による講義では、セミナー参加者の理解を促進させるため、実際の食品を例にとり、ウェブ会議システムの画面上に映し出して、どこに栄養成分表示が書かれているか、具体的に説明する等の工夫を行った。</p> <p>開催日程</p> <ul style="list-style-type: none"> セミナーの実施日時（オンラインでの開催） <p>2022年1月18日（火）19：00～19：50</p> <p>2022年1月21日（金）11：00～11：50</p> <p>対象者の集客方法</p> <p>実施先の担当者から、セミナーの広報を対象者に対し実施、その後、開催日時を決定した。その後、各回のセミナーに参加可能者を確認した上で、セミナー参加者を確定した。</p> <p>参加申し込みの方法</p> <p>実施先の担当者が参加可能者に対し、各回のセミナーの視聴 URL を配布する形で参加方法を告知した。</p>

参加者数とアンケート結果	<ul style="list-style-type: none"> セミナー参加者数 6名 アンケート回収数（回収率） <p>受講前アンケート 6名（100%） 受講直後アンケート 5名（83%） 受講1週間後アンケート 5名（83%）</p>
施設及び対象者からのコメント	<p>施設から</p> <p>被験者が自らの健康状態の維持のため、栄養成分表示を活用することを引き続き期待しているとのコメントを得た。</p> <p>対象者から</p> <p>各栄養成分の必要摂取量やナトリウム含有量を食塩量に置き換える方法、調整しなければいけない栄養素が複数ある場合の考え方について質問があった。</p>
考察	<ul style="list-style-type: none"> 健康に关心はあるが、具体的に何から取り組んでいいのかがわからない者へのきっかけづくりとなると考えられる。

（6） 健康アプリにおける利用者に対する普及啓発モデルの検証

① AI健康管理アプリケーション「カロママ」

実施先名	AI健康管理アプリケーション「カロママ」
背景	<p>本事業では、栄養成分表示の普及啓発として、動画プログラムを活用したセミナーの実施を基本としている。一方、今後、動画プログラムを利活用していく上で、「動画プログラムのみ」を視聴する場面も想定される。そこで、モデル健康アプリを利用し動画プログラムの配信、アンケートの回収を行うこととした。</p> <p>「カロママ」は、株式会社リンクアンドコミュニケーションが開発したアプリケーションであり、ダイエットを目的とした利用者が多い。そのため、利用者は、健康意識が高い集団であることが想定される。その一方で、健康アプリ内での動画プログラムの配信では、動画プログラムのみを視聴する者の意見や行動変容の有無も評価できる可能性がある。</p> <p>＜「カロママ」の利用者特性＞</p> <ul style="list-style-type: none"> ダウンロード数：約75万ダウンロード 利用者の性別：男性25%、女性75% 利用者の年代：20代と30代で約50%、その他で約50% 住居地：全国
想定する対象者	<ul style="list-style-type: none"> 配信対象：約3万名（20～50代の女性中心） 健康アプリを積極的に活用している健康意識の高い方

方法	<p>対象者：2022年1月に健康アプリを1回以上起動した利用者</p> <p>配信方法</p> <p>「基本編」「目的別編（減塩／エネルギー調整）」の視聴と管理栄養士による講演を組み合わせて実施した。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・動画プログラム配信日※ <p>2022年1月19日（水） 2022年1月20日（木） 2022年1月21日（金）</p> <p>※1日に動画プログラムを1本ずつ配信した。</p> <p>動画視聴者を獲得するための方策</p> <p>より多くの健康アプリの利用者の閲覧を増やすため、動画プログラムの配信時にプッシュ通知機能（自動的にお知らせを通知する機能）を利用した。</p> <p>アンケート調査</p> <p>動画プログラムの視聴直後アンケートについては、そのまま健康アプリ内からアンケート調査を実施するウェブページへ遷移できる導線確保を行い、アンケート調査の回収率を上げる工夫をした。</p>
動画プログラム視聴者数とアンケート結果	<ul style="list-style-type: none"> ・動画プログラムの再生回数※ <p>基本編：1,068回 目的別編（エネルギー調整）：826回 目的別編（減塩）：777回 合計：2,671回</p> <p>※動画プログラムを再生した人数ではなく、動画プログラムを再生した回数（1人が2回視聴した場合、2回とカウントされる）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・アンケート回収数（回収率※） <p>動画プログラムの視聴前アンケート 3,127名 動画プログラムの視聴後アンケート 440名（14%） 動画プログラムの視聴1週間後アンケート 586名（18%）</p> <p>※視聴前のアンケート回収数に対する割合</p>
健康アプリ運営社からのコメント	<p>健康アプリ運営社から</p> <p>「カロママ」では、通常の運用においてアンケートを頻繁に実施していることから、利用者はアンケート回答に対する障壁が比較的低い集団であると推測される。「カロママ」におけるインセンティブなしのアンケート回収数は、通常、約2,000～3,000。今回も動画プログラムの視聴前アンケートにおいて同</p>

	程度の回収数であった。しかし視聴直後、1週間後アンケートでは回収数が伸びなかった。インセンティブを付与できれば、今回の2～4倍の回収を見始めたと推測している。
考察	・健康アプリによる動画プログラムの配信では、セミナーを実施する場合と比較して、多くの対象者を獲得できる可能性があること、対象者である健康アプリの利用者は任意のタイミングで視聴が可能なことが利点として挙げられる。一方、デメリットとしては、講師による補足説明や質疑応答による追加の情報が得られないこと、動画プログラムの視聴途中の離脱が容易なことなどが考えられる。また、アンケート回収率の数値は低かったが、3つの動画プログラムの再生回数は、合計で2,671回であり、多くの健康アプリの利用者が動画プログラムを視聴していた。これは、健康アプリの利用者の健康意識が高いこと、利用者の興味と動画プログラムの内容が合致していたこと、動画プログラムを配信する際の宣伝やプッシュ機能が効果的であったことが影響したと推察している。今後の普及啓発の際には、動画プログラムの配信のみとなるケースも想定されることから、スマートフォン等のプッシュ機能のある電子媒体を活用することにより、より多くの消費者への普及啓発に繋がることが期待できる。

(7) 実地・オンライン開催セミナーに関する全体考察

①セミナー参加者及び動画視聴者の状況について

開催チャネル	開催日程	①集客 計画	②セミナー参加者数 動画視聴者数 (②/①)
A) 栄養ケア・ステーション からふる	1月11日	100	15
	1月13日		9
	1月17日		15
小計		100	39 (39%)
B) 東小金井さくらクリニック デイケアこきん	1月19日	30	10
	1月20日		10
小計		30	20 (67%)
C) 株式会社マルト	1月18日	60	7
	1月20日		8
小計		60	15 (25%)
D) ウエルシア薬局株式会社	1月14日	60	50
	1月18日		25
小計		60	75 (125%)
E) 所沢ハートセンター	1月18日	10	3
	1月21日		3
小計		10	6 (60%)
F) 健康アプリ「カロママ」 ※動画配信のみ	1月19~21日	3,000	2,671
総計		3,260	2,826

<各セミナー等の集客計画及びセミナー参加者及び動画視聴者の数>

セミナー参加者及び動画視聴者の数は、当初の集客計画を下回っているが、新型コロナウイルス感染症の感染拡大、募集期間が1か月未満となったことが影響した可能性が示唆された。

②セミナーの講師への事前研修会の実施について

セミナーの講師や運営スタッフの準備期間があり、事前に事業内容やトラブル対応等への共有を図ることができた。

③セミナー当日の運営状況について

実地及びオンラインでの開催共に講師や運営スタッフの役割分担により、スムーズな運用が実現した。セミナー参加者に対して共通のアンケート記入を依頼したところ、高齢者施設では運営スタッフだけでなく、施設職員のサポートを必要とする場面があり、このような特別な配慮（アンケート設問の読み上げ、解答欄への記入等の補助）が必要な人に対しては、セミナー参加者の個別性に応じた対策も必要であった。今後、動画プログラムを活用したセミナーを実施する際に、満足度等の評価をする際には、アンケート調査票の設問内容や設問数に工夫をすることで、より効果的な普及啓発につながると考えられる。

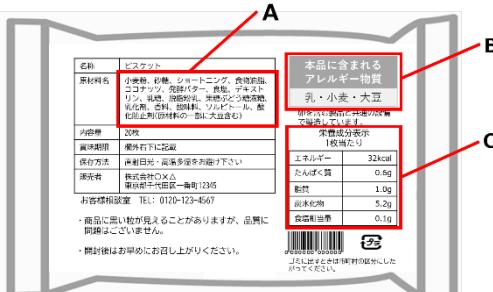
④講師からのセミナーに関する評価について

講師からは、セミナーに向けた準備時間が短縮されたこと、均質化された内容を提供できること等の意見があり、動画プログラムによって講師の実行可能性を高めることができたと考えられる。

3. セミナー参加者のアンケート結果

(1) アンケート調査票詳細（受講前／受講直後／1週間後）

・セミナー実施前にご回答いただくアンケート項目（セミナー受講前アンケート）

質問番号	質問文（回答方法）	選択肢
質問1	あなたは食品に栄養成分表示がされていることを知っていますか？（お答えは1つ）	<input type="radio"/> はい <input type="radio"/> いいえ
質問2	次の図のA/B/Cの中で栄養成分表示を示しているのはどれでしょうか。（お答えは1つ）	<input type="radio"/> A <input type="radio"/> B <input type="radio"/> C
		
質問3-①	<p>（ ）に当てはまる栄養素を（あ）～（き）の中から選択してください。</p> <p>①（ ）は、人体の骨格や筋肉などの組織を構成する主要な要素であるとともに、酵素やホルモンの材料として代謝を調整するなど様々な機能を果たしており、生命の維持に不可欠です。</p>	あ：カルシウム い：コレステロール う：脂質 え：炭水化物 お：たんぱく質 か：ナトリウム き：ビタミンC
質問3-②	<p>（ ）に当てはまる栄養素を（あ）～（き）の中から選択してください。</p> <p>②（ ）は、細胞膜の主要な構成成分です。また、脂溶性ビタミンの吸収を助けます。また、人の生命維持に不可欠なエネルギー源である一方、摂りすぎると肥満や心疾患のリスクを高めます。</p>	あ：カルシウム い：コレステロール う：脂質 え：炭水化物 お：たんぱく質 か：ナトリウム き：ビタミンC
質問3-③	<p>（ ）に当てはまる栄養素を（あ）～（き）の中から選択してください。</p> <p>③（ ）の最も重要な役割は、エネルギー源としての機能です。糖質と食物繊維に分けられ、糖質は体内で分解されると、ぶどう糖等になります。脳や神経組織等の組織は、通常ぶどう糖しかエネルギー源として利用できないため、糖質は重要な栄養素です。しかし、余分に摂りすぎると脂肪に変わり肥満の原因となります。</p>	あ：カルシウム い：コレステロール う：脂質 え：炭水化物 お：たんぱく質 か：ナトリウム き：ビタミンC

質問番号	質問文（回答方法）	選択肢																				
質問4	<p>下の栄養成分表示で同じ量を食べた時にエネルギーが高いのはどちらでしょうか？（お答えは1つ）</p> <p>A</p> <table border="1"> <caption>栄養成分表示 1袋（20g）当たり</caption> <tr><td>エネルギー</td><td>70kcal</td></tr> <tr><td>たんぱく質</td><td>2.6g</td></tr> <tr><td>脂質</td><td>3.0g</td></tr> <tr><td>炭水化物</td><td>8.2g</td></tr> <tr><td>食塩相当量</td><td>0.1g</td></tr> </table> <p>B</p> <table border="1"> <caption>栄養成分表示 1袋（100g）当たり</caption> <tr><td>エネルギー</td><td>300kcal</td></tr> <tr><td>たんぱく質</td><td>11.0g</td></tr> <tr><td>脂質</td><td>12.9g</td></tr> <tr><td>炭水化物</td><td>35.0g</td></tr> <tr><td>食塩相当量</td><td>0.2g</td></tr> </table>	エネルギー	70kcal	たんぱく質	2.6g	脂質	3.0g	炭水化物	8.2g	食塩相当量	0.1g	エネルギー	300kcal	たんぱく質	11.0g	脂質	12.9g	炭水化物	35.0g	食塩相当量	0.2g	<input type="radio"/> A <input type="radio"/> B
エネルギー	70kcal																					
たんぱく質	2.6g																					
脂質	3.0g																					
炭水化物	8.2g																					
食塩相当量	0.1g																					
エネルギー	300kcal																					
たんぱく質	11.0g																					
脂質	12.9g																					
炭水化物	35.0g																					
食塩相当量	0.2g																					
質問5	<p>あなたは、食習慣を改善してみようと考えていますか。 現在のお気持ちに最も近いものを教えてください。 (お答えは1つ)</p>	<input type="radio"/> 改善することに关心がない <input type="radio"/> 关心はあるが改善するつもりはない <input type="radio"/> 改善するつもりである（概ね6ヶ月以内） <input type="radio"/> 近いうちに（概ね1ヶ月以内）改善するつもりである <input type="radio"/> 既に改善に取り組んでいる（6ヶ月未満） <input type="radio"/> 既に改善に取り組んでいる（6ヶ月以上） <input type="radio"/> 食習慣に問題はないため改善する必要はない																				
質問6	<p>あなたは、主食（ごはん、パン、麺類などの料理）、主菜（魚介類、肉類、卵類、大豆・大豆製品を主材料にした料理）、副菜（野菜類、海藻類、きのこ類を主材料にした料理）の3つを組み合わせて食べることが1日に2回以上あるのは週に何日ありますか。（お答えは1つ）</p>	<input type="radio"/> ほとんど毎日 <input type="radio"/> 週に4～5日 <input type="radio"/> 週に2～3日 <input type="radio"/> ほとんどない																				
質問7	<p>あなたは、食品の購入時など、ふだんの食生活において「栄養成分の量及び熱量（栄養成分表示）」をどの程度参考にしていますか。（お答えは1つ）</p>	<input type="radio"/> いつも参考にしている（⇒質問8へ） <input type="radio"/> ときどき参考にしている（⇒質問8へ） <input type="radio"/> あまり参考にしていない（⇒質問10へ） <input type="radio"/> 全く参考にしていない（⇒質問10へ）																				

質問番号	質問文（回答方法）	選択肢
質問8	<p>(問7で「いつも参考にしている」、「ときどき参考にしている」とご回答いただいた方にお伺いします)</p> <p>あなたが食品の購入時など、ふだんの食生活において「栄養成分の量及び熱量（栄養成分表示）」を確認する理由を教えてください。（お答えはいくつでも）</p>	<input type="checkbox"/> 栄養バランスのとれた食事をしたいため <input type="checkbox"/> 摂取した食品の栄養素の量や熱量（エネルギー）を把握するため <input type="checkbox"/> 摂取する栄養素の量や熱量（エネルギー）を調節するため <input type="checkbox"/> 健康の維持増進のため <input type="checkbox"/> 体重管理のため <input type="checkbox"/> 疾病等の健康上の理由から食事に注意が必要なため <input type="checkbox"/> その他（自由記載）
質問9	<p>(問7で「いつも参考にしている」、「ときどき参考にしている」とご回答いただいた方にお伺いします)</p> <p>あなたが食品の購入時に確認する「栄養成分の量及び熱量（栄養成分表示）」を教えてください。（お答えはいくつでも）</p>	<input type="checkbox"/> エネルギー（熱量） <input type="checkbox"/> たんぱく質 <input type="checkbox"/> 脂質 <input type="checkbox"/> 炭水化物 <input type="checkbox"/> ナトリウム <input type="checkbox"/> その他（自由記載）
質問10	<p>(問7で「あまり参考にしていない」、「全く参考にしていない」とご回答いただいた方にお伺いします)</p> <p>あなたが食品の購入時など、ふだんの食生活において「栄養成分の量及び熱量（栄養成分表示）」を確認しない理由をお答えください。（お答えはいくつでも）</p>	<input type="checkbox"/> 食事に気を遣う必要がないため <input type="checkbox"/> 表示されている栄養成分の意味が理解できないため <input type="checkbox"/> 栄養成分そのものに关心がないため <input type="checkbox"/> 確認するのが面倒なため <input type="checkbox"/> 確認するのに時間がかかるため <input type="checkbox"/> その他（自由記載）

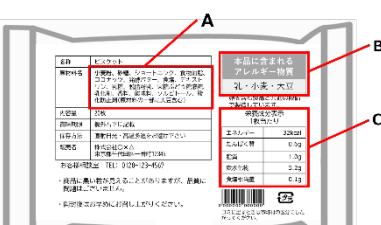
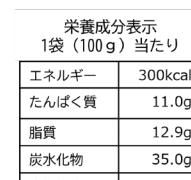
※その他、基本属性項目として、性別、生年月日、セミナー受講日も取得。

・セミナー直後に回答いただくアンケート項目（セミナーの受講直後アンケート）

質問番号	質問文（回答方法）	選択肢																								
質問1	次の図の A/B/C の中で栄養成分表示を示しているのはどれでしょうか。（お答えは1つ） 	<input type="radio"/> A <input type="radio"/> B <input type="radio"/> C																								
質問2-①	() に当てはまる栄養素を (あ) ~ (き) の中から選択してください。 ① () は、人体の骨格や筋肉などの組織を構成する主要な要素であるとともに、酵素やホルモンの材料として代謝を調整するなど様々な機能を果たしており、生命の維持に不可欠です。	あ：カルシウム い：コレステロール う：脂質 え：炭水化物 お：たんぱく質 か：ナトリウム き：ビタミンC																								
質問2-②	() に当てはまる栄養素を (あ) ~ (き) の中から選択してください。 ② () は、細胞膜の主要な構成成分です。また、脂溶性ビタミンの吸収を助けます。また、人の生命維持に不可欠なエネルギー源である一方、摂りすぎると肥満や心疾患のリスクを高めます。	あ：カルシウム い：コレステロール う：脂質 え：炭水化物 お：たんぱく質 か：ナトリウム き：ビタミンC																								
質問2-③	() に当てはまる栄養素を (あ) ~ (き) の中から選択してください。 ③ () の最も重要な役割は、エネルギー源としての機能です。糖質と食物繊維に分けられ、糖質は体内で分解されると、ぶどう糖等になります。脳や神経組織等の組織は、通常ぶどう糖しかエネルギー源として利用できないため、糖質は重要な栄養素です。しかし、余分に摂りすぎると脂肪に変わり肥満の原因となります。	あ：カルシウム い：コレステロール う：脂質 え：炭水化物 お：たんぱく質 か：ナトリウム き：ビタミンC																								
質問3	下の栄養成分表示で同じ量を食べた時にエネルギーが高いのはどちらでしょうか？（お答えは1つ） A <table border="1"> <tr> <td colspan="2">栄養成分表示 1袋 (20g) 当たり</td> </tr> <tr> <td>エネルギー</td> <td>70kcal</td> </tr> <tr> <td>たんぱく質</td> <td>2.6g</td> </tr> <tr> <td>脂質</td> <td>3.0g</td> </tr> <tr> <td>炭水化物</td> <td>8.2g</td> </tr> <tr> <td>食塩相当量</td> <td>0.1g</td> </tr> </table> B <table border="1"> <tr> <td colspan="2">栄養成分表示 1袋 (100g) 当たり</td> </tr> <tr> <td>エネルギー</td> <td>300kcal</td> </tr> <tr> <td>たんぱく質</td> <td>11.0g</td> </tr> <tr> <td>脂質</td> <td>12.9g</td> </tr> <tr> <td>炭水化物</td> <td>35.0g</td> </tr> <tr> <td>食塩相当量</td> <td>0.2g</td> </tr> </table>	栄養成分表示 1袋 (20g) 当たり		エネルギー	70kcal	たんぱく質	2.6g	脂質	3.0g	炭水化物	8.2g	食塩相当量	0.1g	栄養成分表示 1袋 (100g) 当たり		エネルギー	300kcal	たんぱく質	11.0g	脂質	12.9g	炭水化物	35.0g	食塩相当量	0.2g	<input type="radio"/> A <input type="radio"/> B
栄養成分表示 1袋 (20g) 当たり																										
エネルギー	70kcal																									
たんぱく質	2.6g																									
脂質	3.0g																									
炭水化物	8.2g																									
食塩相当量	0.1g																									
栄養成分表示 1袋 (100g) 当たり																										
エネルギー	300kcal																									
たんぱく質	11.0g																									
脂質	12.9g																									
炭水化物	35.0g																									
食塩相当量	0.2g																									

※その他、基本属性項目として、性別、生年月日、セミナー受講日も取得。

・セミナー1週間後にご回答いただくアンケート項目（セミナーの受講1週間後アンケート）

質問番号	質問文（回答方法）	選択肢
質問1	次の図の A/B/C の中で栄養成分表示を示しているのはどれでしょうか。（お答えは1つ） 	<input type="radio"/> A <input type="radio"/> B <input type="radio"/> C
質問2-①	(　　)に当てはまる栄養素を(あ)～(き)の中から選択してください。 ①(　　)は、人体の骨格や筋肉などの組織を構成する主要な要素であるとともに、酵素やホルモンの材料として代謝を調整するなど様々な機能を果たしており、生命の維持に不可欠です。	あ：カルシウム い：コレステロール う：脂質 え：炭水化物 お：たんぱく質 か：ナトリウム き：ビタミンC
質問2-②	(　　)に当てはまる栄養素を(あ)～(き)の中から選択してください。 ②(　　)は、細胞膜の主要な構成成分です。また、脂溶性ビタミンの吸収を助けます。また、人の生命維持に不可欠なエネルギー源である一方、摂りすぎると肥満や心疾患のリスクを高めます。	あ：カルシウム い：コレステロール う：脂質 え：炭水化物 お：たんぱく質 か：ナトリウム き：ビタミンC
質問2-③	(　　)に当てはまる栄養素を(あ)～(き)の中から選択してください。 ③(　　)の最も重要な役割は、エネルギー源としての機能です。糖質と食物繊維に分けられ、糖質は体内で分解されると、ぶどう糖等になります。脳や神経組織等の組織は、通常ぶどう糖しかエネルギー源として利用できないため、糖質は重要な栄養素です。しかし、余分に摂りすぎると脂肪に変わり肥満の原因となります。	あ：カルシウム い：コレステロール う：脂質 え：炭水化物 お：たんぱく質 か：ナトリウム き：ビタミンC
質問3	下の栄養成分表示で同じ量を食べた時にエネルギーが高いのはどちらでしょうか？（お答えは1つ） A  B 	<input type="radio"/> A <input type="radio"/> B

質問番号	質問文（回答方法）	選択肢
質問4	<p>あなたは、食習慣を改善してみようと考えていますか。 現在のお気持ちに最も近いものを教えてください。 (お答えは1つ)</p>	<input type="radio"/> 改善することに関心がない <input type="radio"/> 関心はあるが改善するつもりはない <input type="radio"/> 改善するつもりである（概ね6ヶ月以内） <input type="radio"/> 近いうちに（概ね1ヶ月以内）改善するつもりである <input type="radio"/> 既に改善に取り組んでいる（6ヶ月未満） <input type="radio"/> 既に改善に取り組んでいる（6ヶ月以上） <input type="radio"/> 食習慣に問題はないため改善する必要はない
質問5	<p>あなたは、主食（ごはん、パン、麺類などの料理）、主菜（魚介類、肉類、卵類、大豆・大豆製品を主材料にした料理）、副菜（野菜類、海藻類、きのこ類を主材料にした料理）の3つを組み合わせて食べることが1日に2回以上あるのは週に何日ありますか。（お答えは1つ）</p>	<input type="radio"/> ほとんど毎日 <input type="radio"/> 週に4～5日 <input type="radio"/> 週に2～3日 <input type="radio"/> ほとんどない
質問6	<p>あなたは、食品の購入時など、ふだんの食生活において「栄養成分の量及び熱量（栄養成分表示）」をどの程度参考にしていますか。（お答えは1つ）</p>	<input type="radio"/> いつも参考にしている (⇒問7へ) <input type="radio"/> ときどき参考にしている (⇒問7へ) <input type="radio"/> あまり参考にしていない (⇒問9へ) <input type="radio"/> 全く参考にしていない (⇒問9へ)
質問7	<p>(問6で「いつも参考にしている」「ときどき参考にしている」とご回答いただいた方にお伺いします)</p> <p>あなたが食品の購入時など、ふだんの食生活において「栄養成分の量及び熱量（栄養成分表示）」を確認する理由を教えてください。（お答えはいくつでも）</p>	<input type="checkbox"/> 栄養バランスのとれた食事をしたいため <input type="checkbox"/> 摂取した食品の栄養素の量や熱量（エネルギー）を把握するため <input type="checkbox"/> 摂取する栄養素の量や熱量（エネルギー）を調節するため <input type="checkbox"/> 健康の維持増進のため <input type="checkbox"/> 体重管理のため <input type="checkbox"/> 疾病等の健康上の理由から食事に注意が必要なため <input type="checkbox"/> その他（自由記載）

質問番号	質問文（回答方法）	選択肢
質問8	<p>(問6で「いつも参考にしている」、「ときどき参考にしている」とご回答いただいた方にお伺いします)</p> <p>あなたが食品の購入時に確認する「栄養成分の量及び熱量（栄養成分表示）」を教えてください。（お答えはいくつでも）</p>	<input type="checkbox"/> エネルギー(熱量) <input type="checkbox"/> たんぱく質 <input type="checkbox"/> 脂質 <input type="checkbox"/> 炭水化物 <input type="checkbox"/> ナトリウム <input type="checkbox"/> その他（自由記載）
質問9	<p>(問6で「あまり参考にしていない」、「全く参考にしていない」とご回答いただいた方にお伺いします)</p> <p>あなたが食品の購入時など、ふだんの食生活において「栄養成分の量及び熱量（栄養成分表示）」を確認しない理由をお答えください。（お答えはいくつでも）</p>	<input type="checkbox"/> 食事に気を遣う必要がないため <input type="checkbox"/> 表示されている栄養成分の意味が理解できないため <input type="checkbox"/> 栄養成分そのものに关心がないため <input type="checkbox"/> 確認するのが面倒なため <input type="checkbox"/> 確認するのに時間がかかるため <input type="checkbox"/> その他（自由記載）

※その他、基本属性項目として、性別、生年月日、セミナー受講日も取得。

(2) アンケート調査結果詳細

アンケート調査票は、各動画プログラムを通した認知度や理解度に関する目標と関連して設定した。

基本編 「栄養成分表示の基本」(全世代向け)

(目標) 栄養成分表示について理解する。

※認知度に関する目標は①、理解度に関する目標は②③④と設定した。

①食品表示のうち、どの部分が栄養成分表示に該当するかを知っている。

②義務表示事項（エネルギー、たんぱく質、脂質、炭水化物、食塩相当量）を知っている。

⇒アンケート調査票【設問】あなたは食品に栄養成分表示がされていることを知っていますか？

⇒アンケート調査票【設問】次の図のA/B/Cの中で栄養成分表示を示しているのはどれでしょうか。

③エネルギー、たんぱく質、脂質、炭水化物、食塩相当量の働きを知っている。

⇒アンケート調査票【設問】()に当てはまる栄養素を(あ)～(き)の中から選択してください。(①～③)

④栄養成分表示の単位を意識して、食品を選択することができる。

⇒アンケート調査票【設問】下の栄養成分表示で同じ量を食べた時にエネルギーが高いのはどちらでしょうか？

上記以外の質問項目については、食習慣の改善意向や栄養成分表示の活用理由等、ふだんの食生活で食品選択をする場面での行動について質問しており、行動変容に繋がったのかを検証した。

以下の表で、各セミナー等で実施したアンケート調査の回収結果を示した。

開催チャネル	開催日程	①集客 計画	②セミナー参加者数 動画視聴者数 (②/①)	受講前・視聴前 アンケート回収数	受講直後・視聴後 アンケート回収数	受講1週間後 視聴1週間後 アンケート回収数	有効 票数
A) 栄養ケア・ステーション からふる	1月11日	100	15	15	9	6	6
	1月13日		9	9	7	3	3
	1月17日		15	15	14	9	9
小計		100	39 (39%)	39	30	18	18
B) 東小金井さくらクリニック デイケアこきん	1月19日	30	10	10	0	0	0
	1月20日		10	8	0	0	0
小計		30	20 (67%)	18	0	0	0
C) 株式会社マルト	1月18日	60	7	7	7	4	4
	1月20日		8	8	8	6	6
小計		60	15 (25%)	15	15	10	10
D) ウエルシア薬局株式会社	1月14日	60	50	53	44	31	27
	1月18日		25	35	26	15	14
小計		60	75 (125%)	88	70	46	41
E) 所沢ハートセンター	1月18日	10	3	3	2	2	2
	1月21日		3	3	3	3	3
小計		10	6 (60%)	6	5	5	5
F) 健康アプリ「カロママ」 ※動画配信のみ	1月19～21日	3,000	2,671	3,127	440	586	306
総計		3,260	2,826	3,293	560	665	380

<各セミナー等の集客予定数、参加者等の数、アンケート回収数、有効票数>

回収したアンケート票は、セミナー参加者と健康アプリ上での動画視聴者では、普及啓発モデルの内容が異なるため、以下の要領で有効票データの選定を行い、最終有効票数を定めた上でセミナー参加者と健康アプリ上での動画視聴者を分けて、アンケート調査の結果を集計した。

開催チャネル A～E の合計	開催チャネル F の合計
受講前アンケート回収数 1 6 6	視聴前アンケート回収数 3,127
受講後アンケート回収数 1 2 0	視聴後アンケート回収数 4 4 0
受講 1 週間後アンケート回収数 7 9	視聴 1 週間後アンケート回収数 5 8 6
有効票数 7 4	有効票数 3 0 6

左記については、いずれも3回のアンケートを全て回答した人であって全ての属性情報が合致した人を有効票数とした。

<アンケート調査の有効票数の選定>

	有効票 1	有効票 2	有効票 3	無効票の考え方
受講前・視聴前アンケート	○	○	○	左のパターンに合致しない票は無効。そして、属性情報が一致しない票も全て無効票とした。
セミナー参加または動画視聴者（基本編）	○	○	○	
セミナー参加または動画視聴者（減塩編）	—	○	—	
セミナー参加または動画視聴者（エネルギー調整編）	—	—	○	
受講直後・視聴後アンケート	○	○	○	
受講・視聴 1 週間後アンケート	○	○	○	

<アンケート調査の有効票数の考え方：除外要件>

※健康アプリによる動画視聴者の場合、目的別偏のみを視聴した者がいるため、アンケート調査の結果の集計では基本編を視聴した者をもって有効票数と整理している。

【アンケート調査結果】

■ 基本属性（性別／年代）

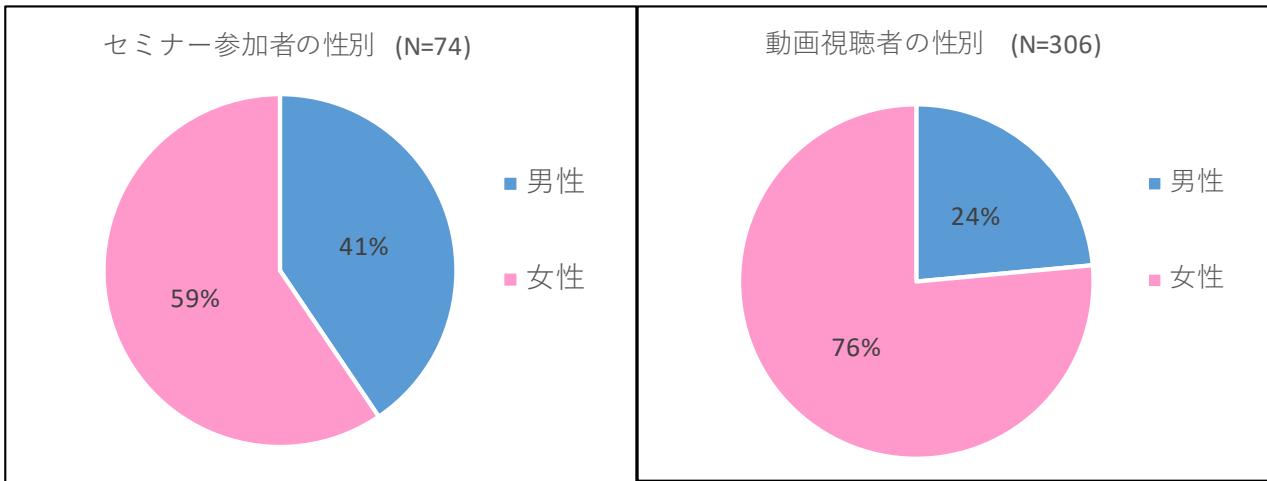


図1 セミナー参加者の性別

図2 動画視聴者の性別

（結果）

- セミナー参加者及び動画視聴者のいずれにおいても、女性の割合が多かった。

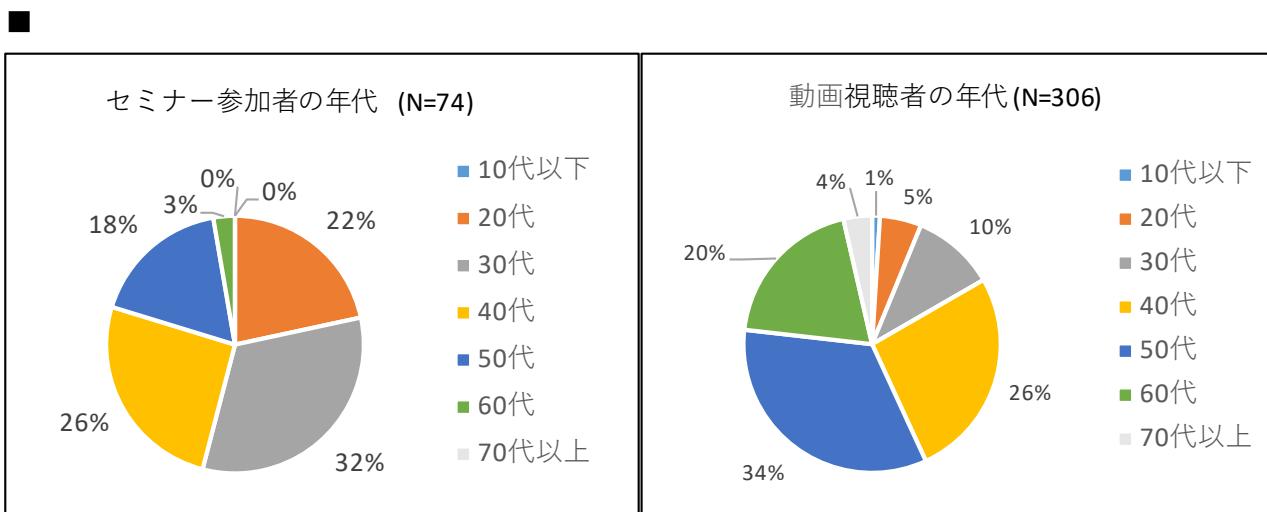


図3 セミナー参加者の年代

図4 動画視聴者の年代

（結果）

- セミナー参加者では30～50代が多かった。一方、動画視聴者では、40～60代が多かった。

質問：あなたは食品に栄養成分表示がされていることを知っていますか？（お答えは1つ）

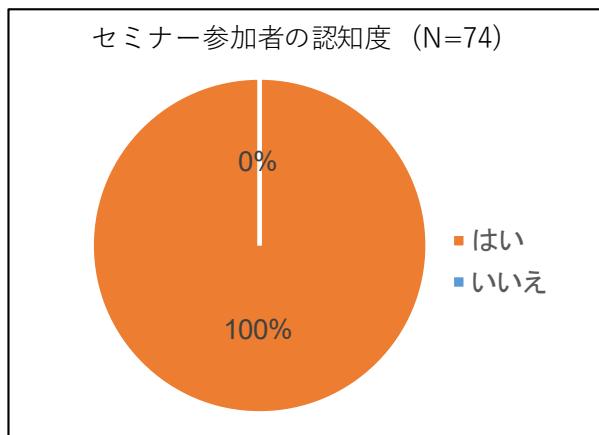


図5 セミナー参加者の認知度

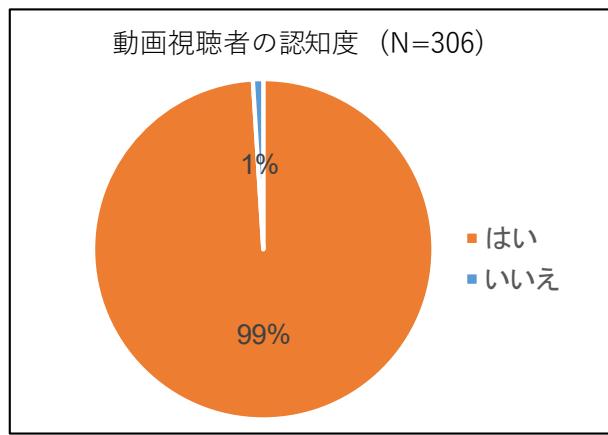
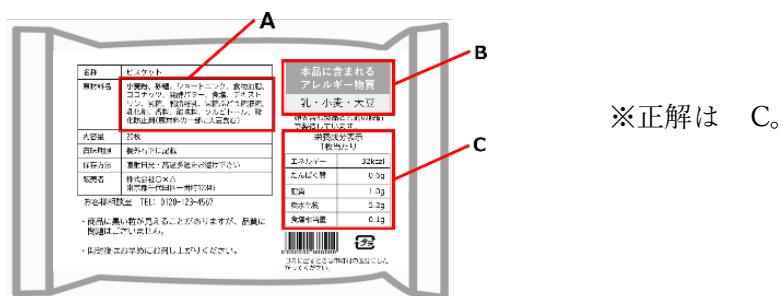


図6 動画視聴者の認知度

(結果)

- セミナー参加者及び動画視聴者のいずれにおいても、ほとんどの者が栄養成分表示を知っていた。

質問：次の図の A/B/C の中で栄養成分表示を示しているのはどれでしょうか。(お答えは 1 つ)



※正解は C。

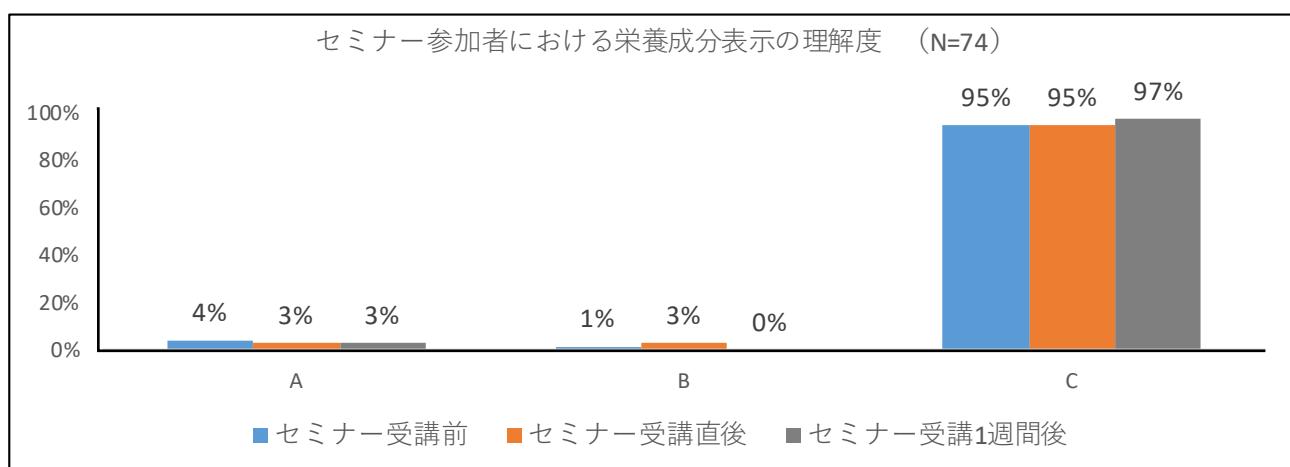


図 7 セミナー参加者における栄養成分表示の理解度

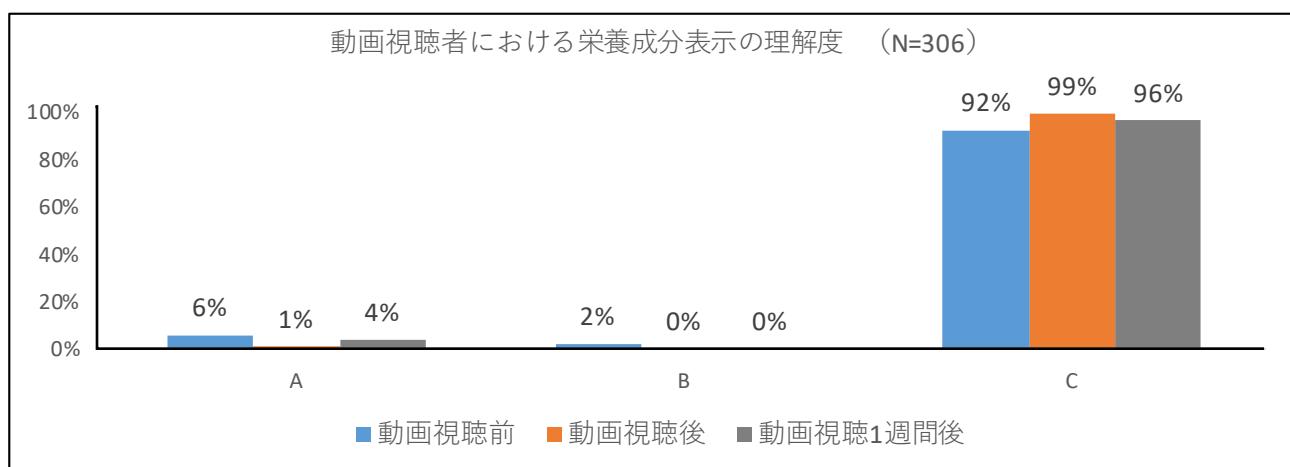


図 8 動画視聴者における栄養成分表示の理解度

(結果)

- セミナー参加者及び動画視聴者のいずれにおいても、ほとんどの者が食品表示のうち、栄養成分表示が容器包装のどれにあたるかをすでに理解していた。

質問：() に当てはまる栄養素を (あ) ~ (き) の中から選択してください。

① () は、人体の骨格や筋肉などの組織を構成する主要な要素であるとともに、酵素やホルモンの材料として代謝を調整するなど様々な機能を果たしており、生命の維持に不可欠です。

(あ) カルシウム、(い) コレステロール、(う) 脂質、(え) 炭水化物、(お) たんぱく質、
(か) ナトリウム、(き) ビタミン C ※正解は (お) たんぱく質。

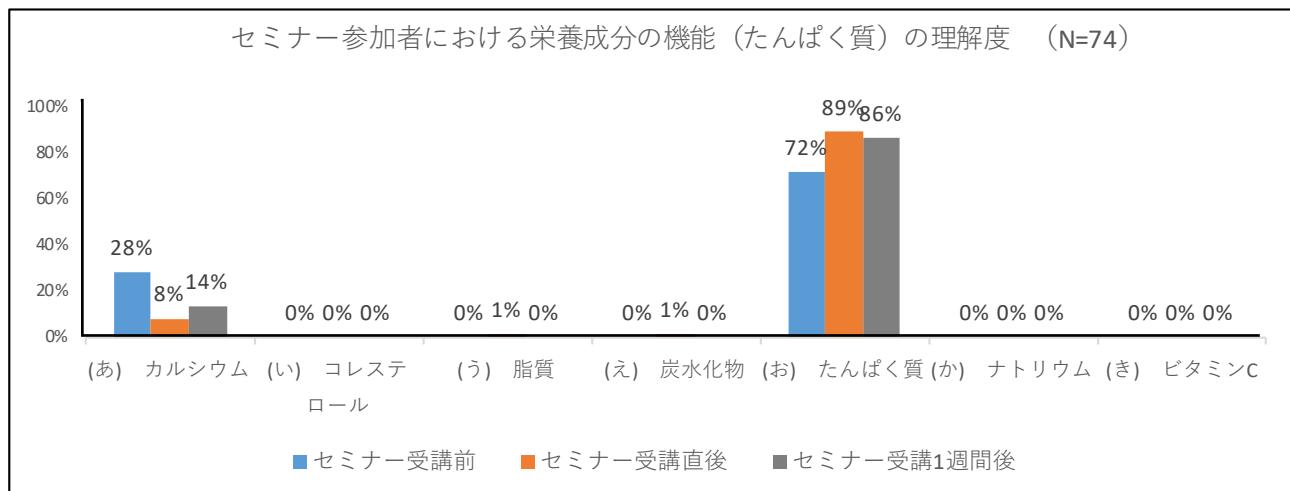


図9 セミナー参加者における栄養成分の機能（たんぱく質）の理解度

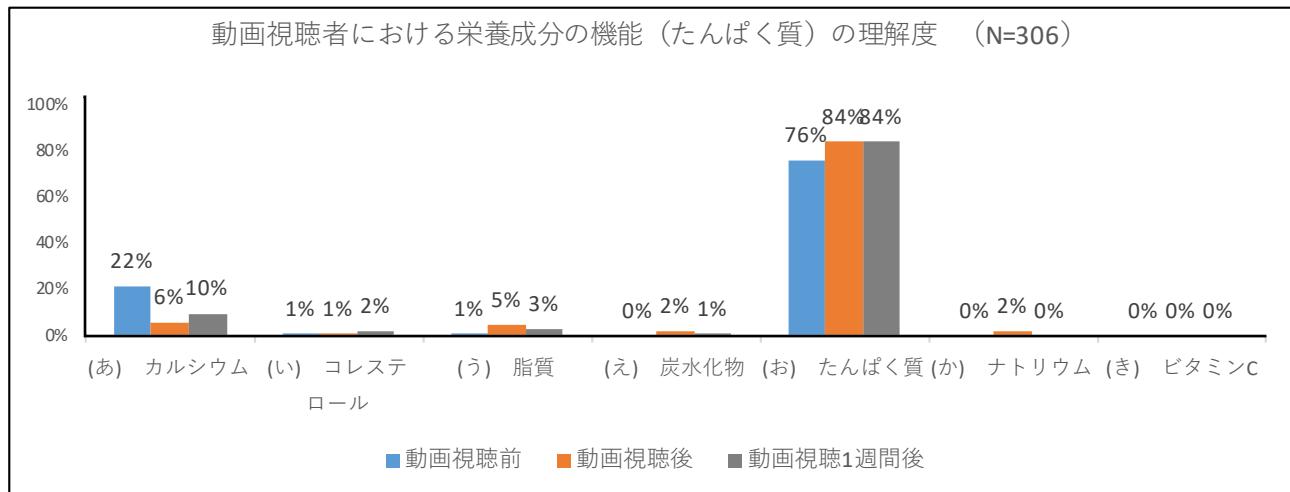


図10 動画視聴者における栄養成分の機能（たんぱく質）の理解度

(結果)

・セミナー参加者及び動画視聴者のいずれにおいても、セミナー受講前に比較し、受講直後及び受講1週間後で栄養成分の機能（たんぱく質）の理解度が高かった。

質問：() に当てはまる栄養素を（あ）～（き）の中から選択してください。

② () は、細胞膜の主要な構成成分です。また、脂溶性ビタミンの吸収を助けます。また、人の生命維持に不可欠なエネルギー源である一方、摂りすぎると肥満や心疾患のリスクを高めます。

(あ) カルシウム、(い) コレステロール、(う) 脂質、(え) 炭水化物、(お) たんぱく質、
(か) ナトリウム、(き) ビタミンC ※正解は (う) 脂質。

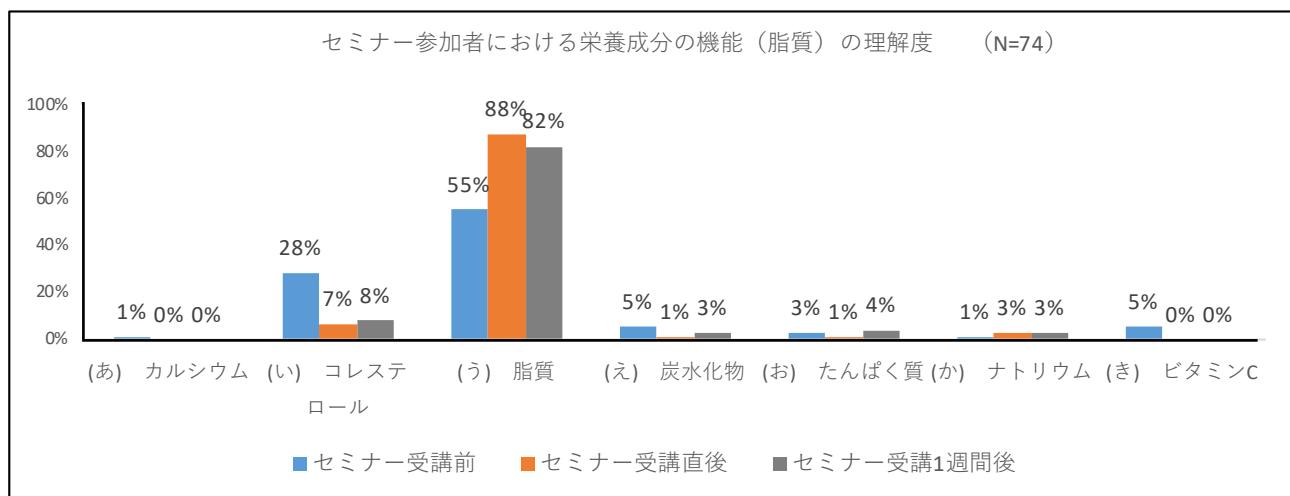


図 11 セミナー参加者における栄養成分の機能（脂質）の理解度

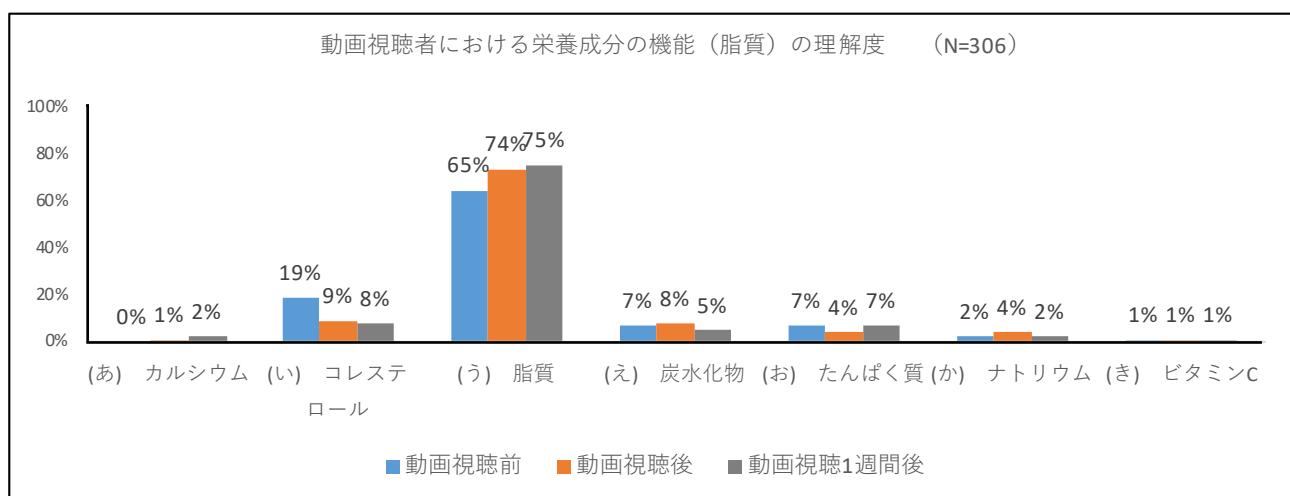


図 12 動画視聴者における栄養成分の機能（脂質）の理解度

(結果)

・セミナー参加者及び動画視聴者のいずれにおいても、セミナー受講前に比較し、受講直後及び受講1週間後で栄養成分の機能（脂質）の理解度が高かった。

質問：() に当てはまる栄養素を（あ）～（き）の中から選択してください。

③（ ）の最も重要な役割は、エネルギー源としての機能です。糖質と食物繊維に分けられ、糖質は体内で分解されると、ぶどう糖等になります。脳や神経組織等の組織は、通常ぶどう糖しかエネルギー源として利用できないため、糖質は重要な栄養素です。しかし、余分に摂りすぎると脂肪に変わり肥満の原因となります。

(あ) カルシウム、(い) コレステロール、(う) 脂質、(え) 炭水化物、(お) たんぱく質、
(か) ナトリウム、(き) ビタミンC ※正解は (え) 炭水化物。

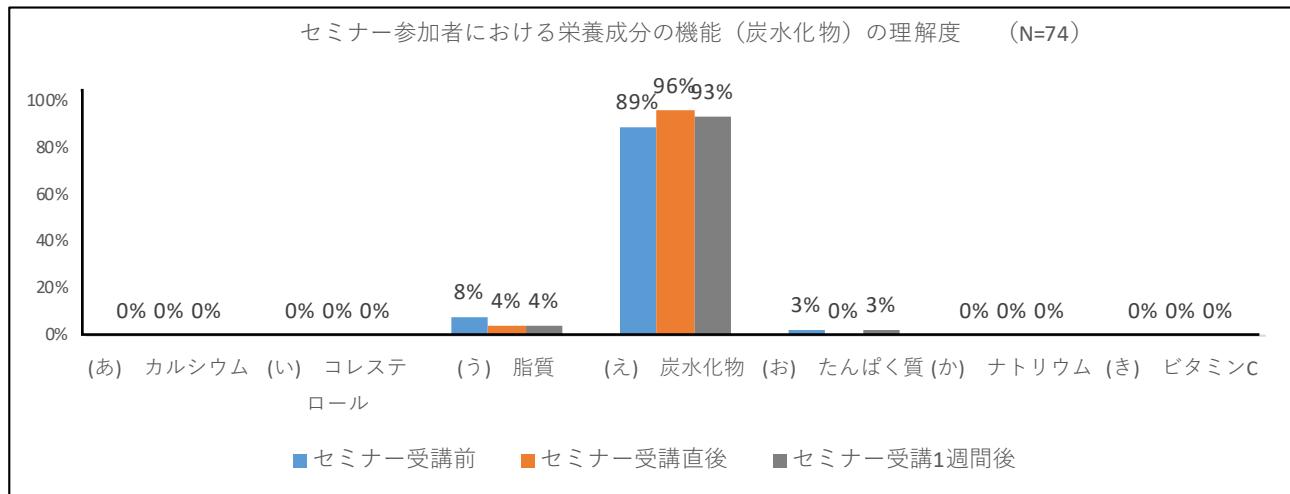


図 13 セミナー参加者における栄養成分の機能（炭水化物）の理解度

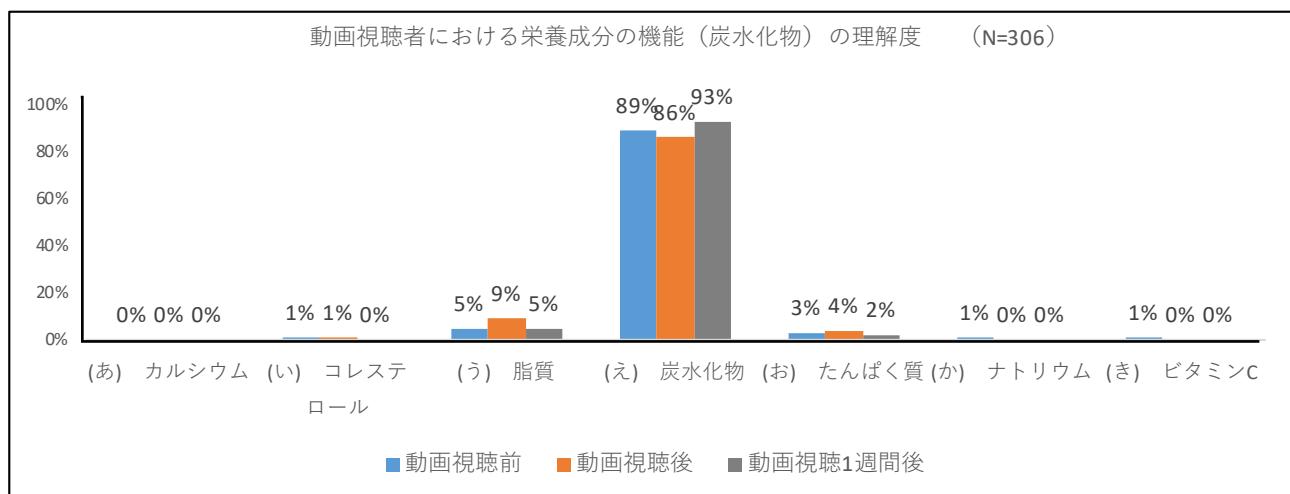


図 14 動画視聴者における栄養成分の機能（炭水化物）の理解度

(結果)

- セミナー参加者においては、セミナー受講前に比較し、受講直後及び受講1週間後で栄養成分の機能（炭水化物）の理解度が高かった。
- 動画視聴者においては、動画視聴前に比較し、動画視聴1週間後で栄養成分の機能（炭水化物）の理解度が高かった。

質問：下の栄養成分表示で同じ量を食べた時にエネルギーが高いのはどちらでしょうか？

(お答えは1つ)

A

栄養成分表示
1袋 (20g) 当たり

エネルギー	70kcal
たんぱく質	2.6g
脂質	3.0g
炭水化物	8.2g
食塩相当量	0.1g

B

栄養成分表示
1袋 (100g) 当たり

エネルギー	300kcal
たんぱく質	11.0g
脂質	12.9g
炭水化物	35.0g
食塩相当量	0.2g

※正解は A。

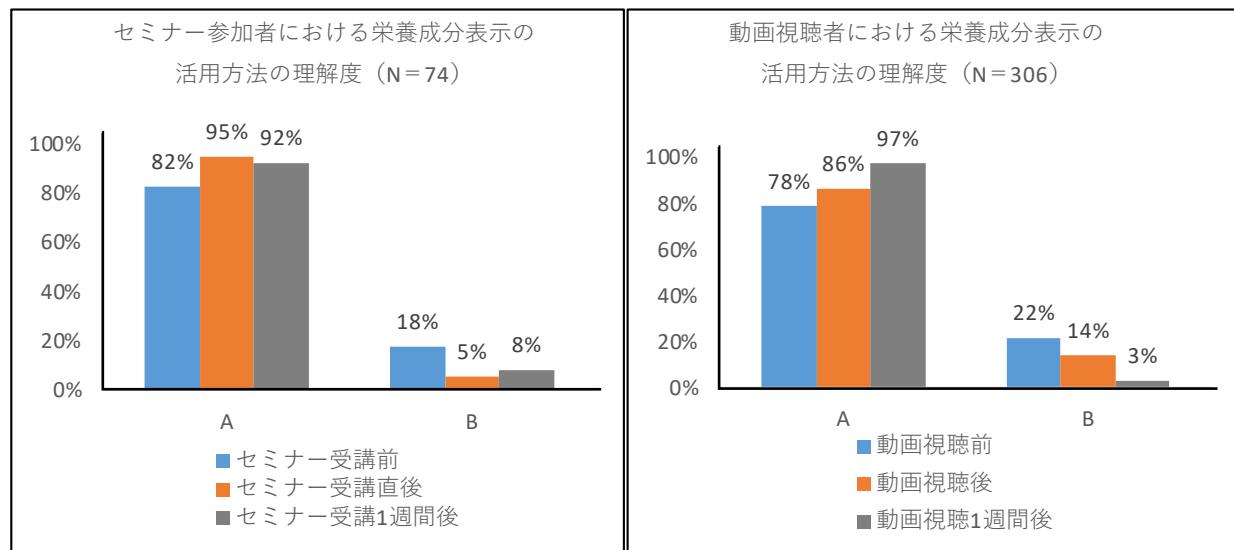


図 15 セミナー参加者における栄養成分表示の活用方法の理解度

図 16 動画視聴者における栄養成分表示の活用方法の理解度

(結果)

- セミナー参加者及び動画視聴者のいずれにおいても、セミナー受講前に比較し、受講直後及び受講1週間後で栄養成分表示の活用方法の理解度が高かった。

質問：あなたは、食習慣を改善してみようと考えていますか。現在のお気持ちに最も近いものを教えてください。（お答えは1つ）

改善することに関心がない／関心はあるが改善するつもりはない／改善するつもりである（概ね6ヶ月以内）／近いうちに（概ね1ヶ月以内）改善するつもりである／既に改善に取り組んでいる（6ヶ月未満）／既に改善に取り組んでいる（6ヶ月以上）／食習慣に問題はないため改善する必要はない

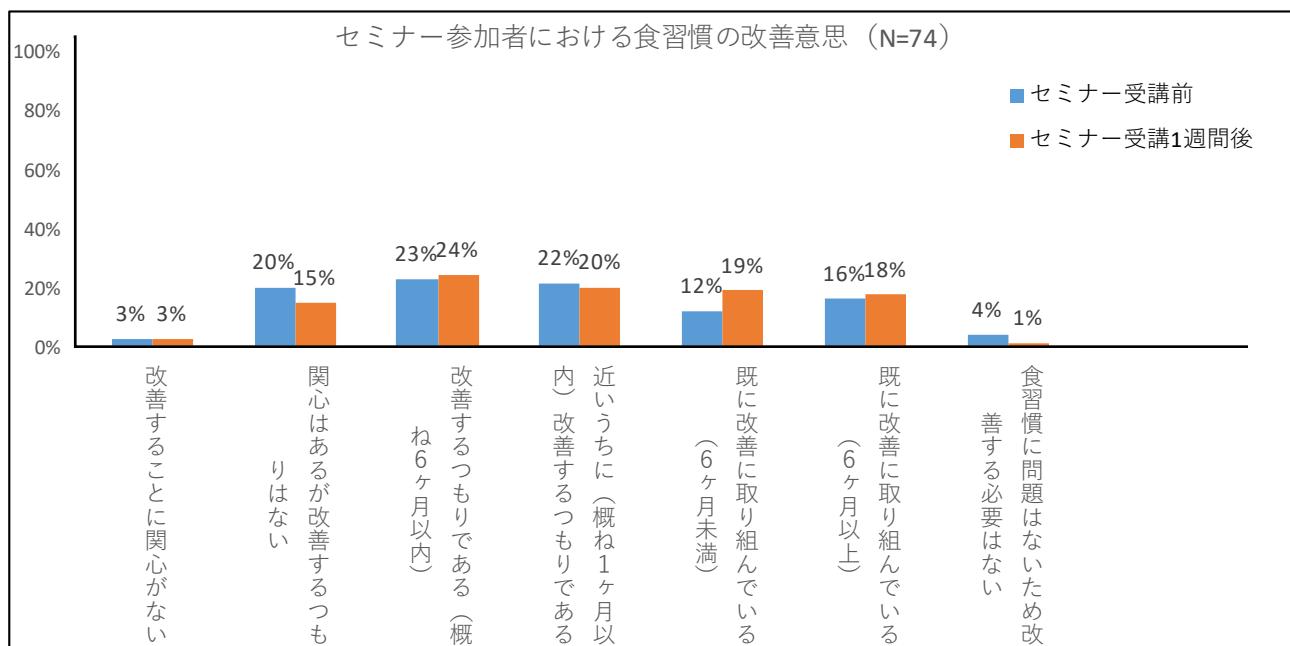


図17 セミナー参加者における食習慣の改善意思

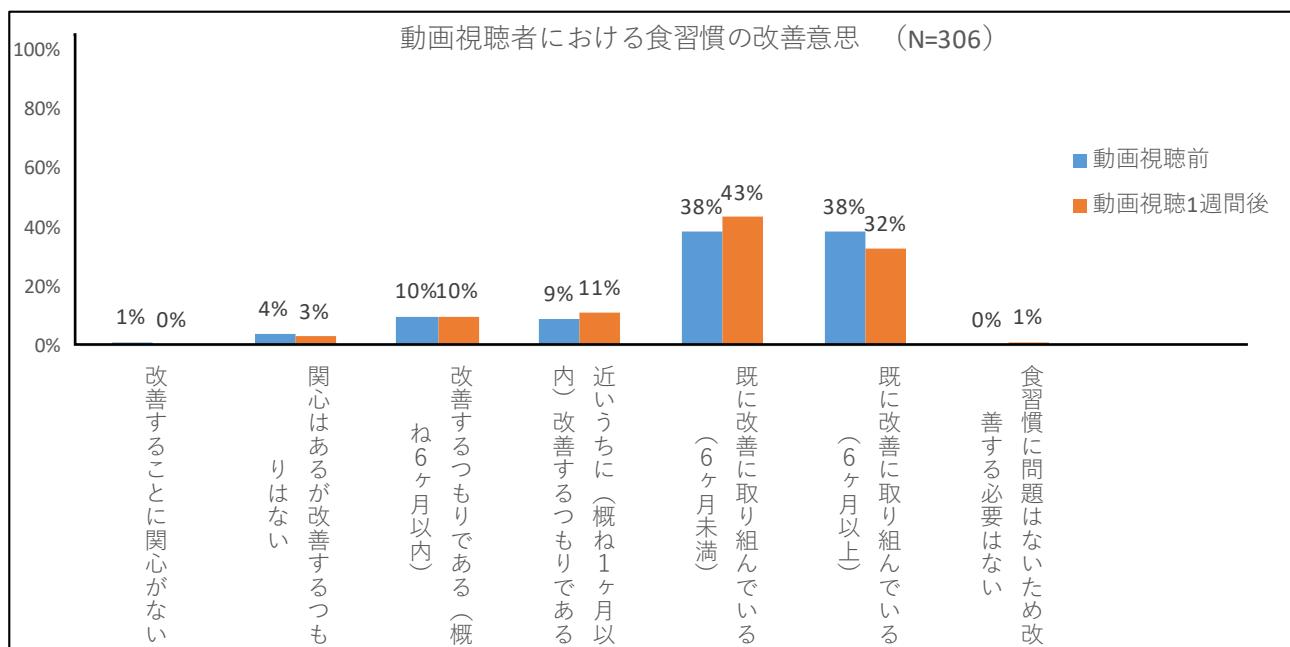


図18 動画視聴者における食習慣の改善意思

（結果）

- セミナー参加者及び動画視聴者いずれにおいても、セミナー受講前後での食習慣の改善意思に変化はみられなかった。

質問：あなたは、主食（ごはん、パン、麺類などの料理）、主菜（魚介類、肉類、卵類、大豆・大豆製品を主材料にした料理）、副菜（野菜類、海藻類、きのこ類を主材料にした料理）の3つを組み合わせて食べることが1日に2回以上あるのは週に何日ありますか。（お答えは1つ）

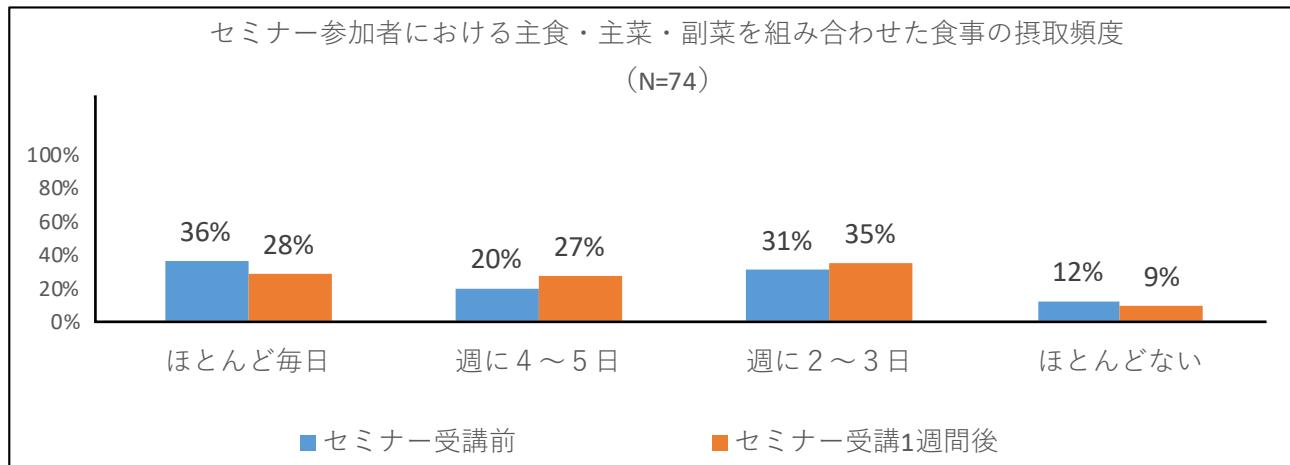


図19 セミナー参加者における主食・主菜・副菜を組み合わせた食事の摂取頻度

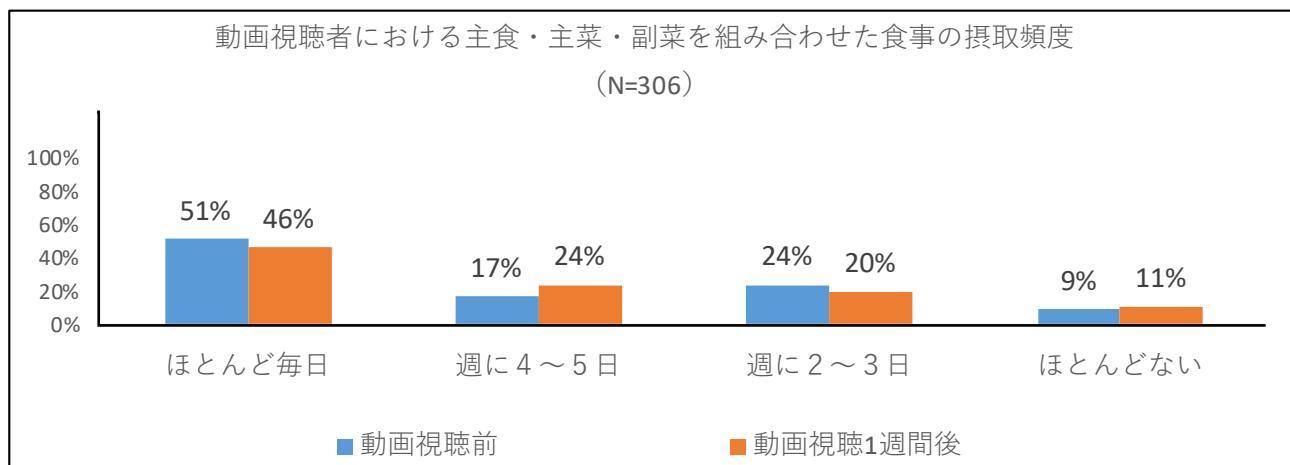


図20 動画視聴者における主食・主菜・副菜を組み合わせた食事の摂取頻度

(結果)

- セミナー参加者及び動画視聴者いずれにおいても、セミナー受講前後での主食・主菜・副菜を組み合わせた食事の摂取頻度に変化はみられなかった。

質問：あなたは、食品の購入時など、ふだんの食生活において「栄養成分の量及び熱量（栄養成分表示）」をどの程度参考にしていますか。（お答えは1つ）

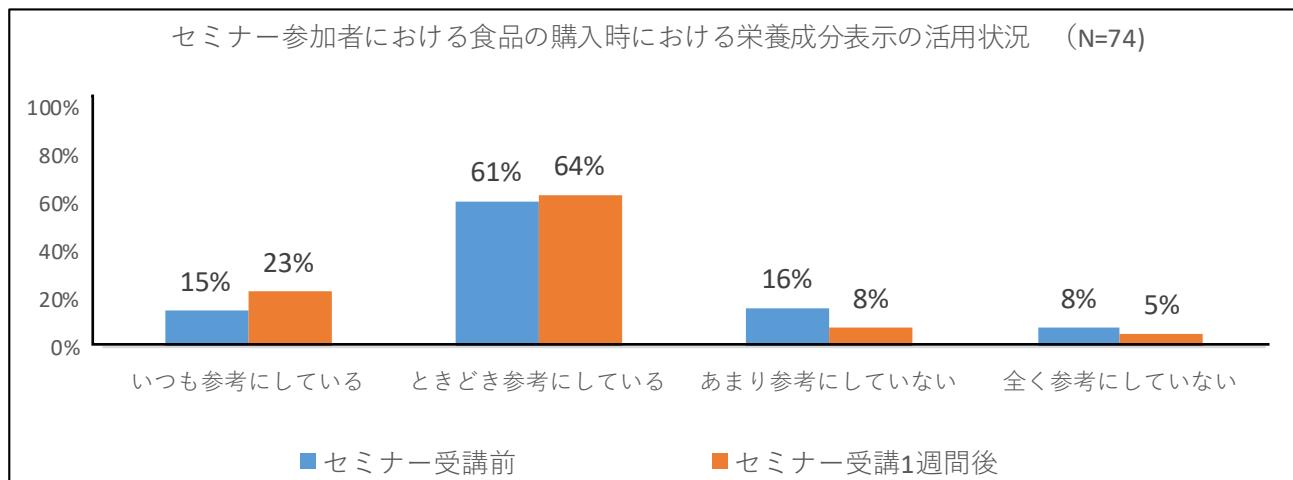


図 21 セミナー参加者における食品の購入時における栄養成分表示の活用状況

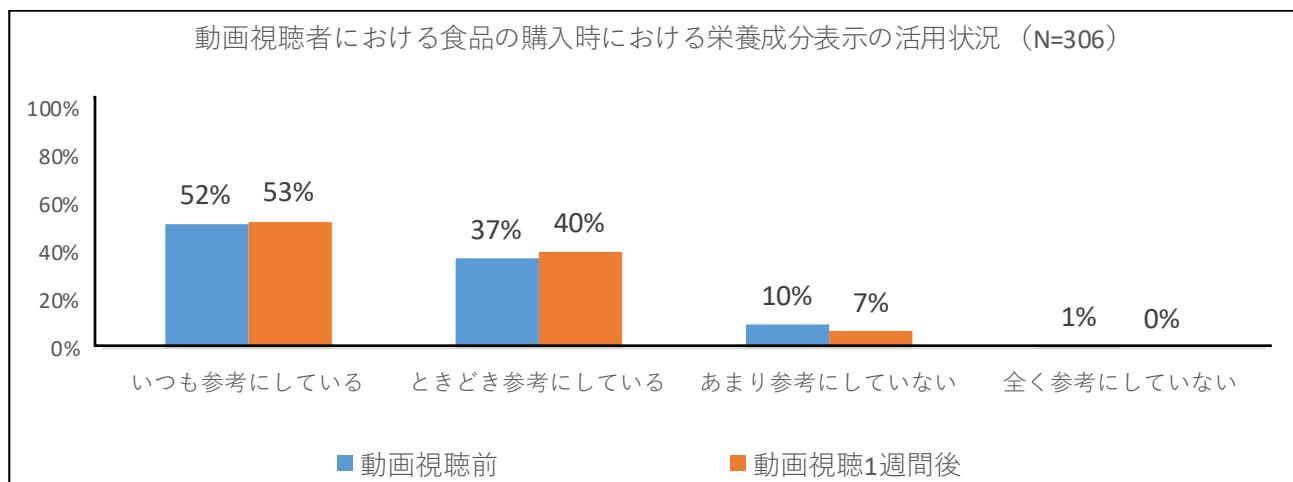


図 22 動画視聴者における食品の購入時における栄養成分表示の活用状況

(結果)

- セミナー参加者及び動画視聴者いずれにおいても、セミナー受講前に比較し、受講1週間後で食品の購入時における栄養成分表示を「いつも参考にしている」「ときどき参考にしている」と回答する者が多かった。

質問：(前の質問で「いつも参考にしている」、「ときどき参考にしている」とご回答いただいた方にお伺いします) あなたが食品の購入時など、ふだんの食生活において「栄養成分の量及び熱量(栄養成分表示)」を確認する理由を教えてください。(お答えはいくつでも)

栄養バランスのとれた食事をしたいため／摂取した食品の栄養素の量や熱量(エネルギー)を把握するため／摂取する栄養素の量や熱量(エネルギー)を調節するため／健康の維持増進のため／体重管理のため／疾病等の健康上の理由から食事に注意が必要なため／その他 (自由記載)

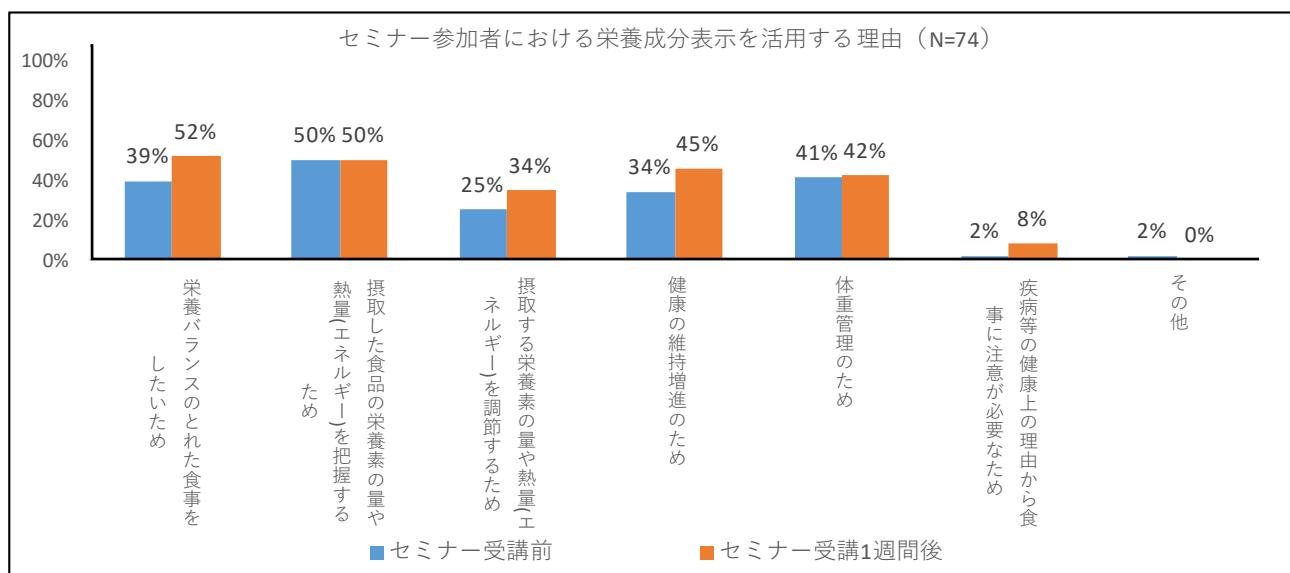


図23 セミナー参加者における栄養成分表示を活用する理由

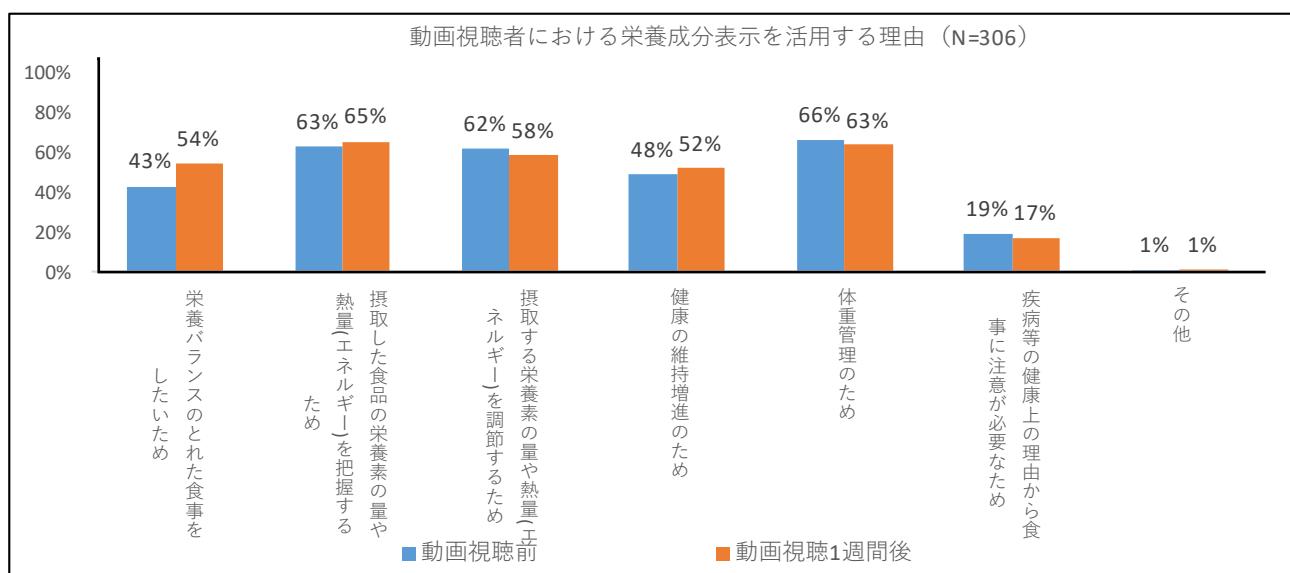


図24 動画視聴者における栄養成分表示を活用する理由

(結果)

- ・食品の購入時における栄養成分表示を「いつも参考にしている」「ときどき参考にしている」と回答したセミナー参加者及び動画視聴者いずれにおいても、セミナー受講前に比較し、受講1週間後で栄養成分表示を活用する理由を回答する者が多かった。

質問：(前の質問で「いつも参考にしている」、「ときどき参考にしている」とご回答いただいた方にお伺いします) あなたが食品の購入時に確認する「栄養成分の量及び熱量(栄養成分表示)」を教えてください。(お答えはいくつでも)

エネルギー(熱量)／たんぱく質／脂質／炭水化物／ナトリウム／その他 (自由記載)

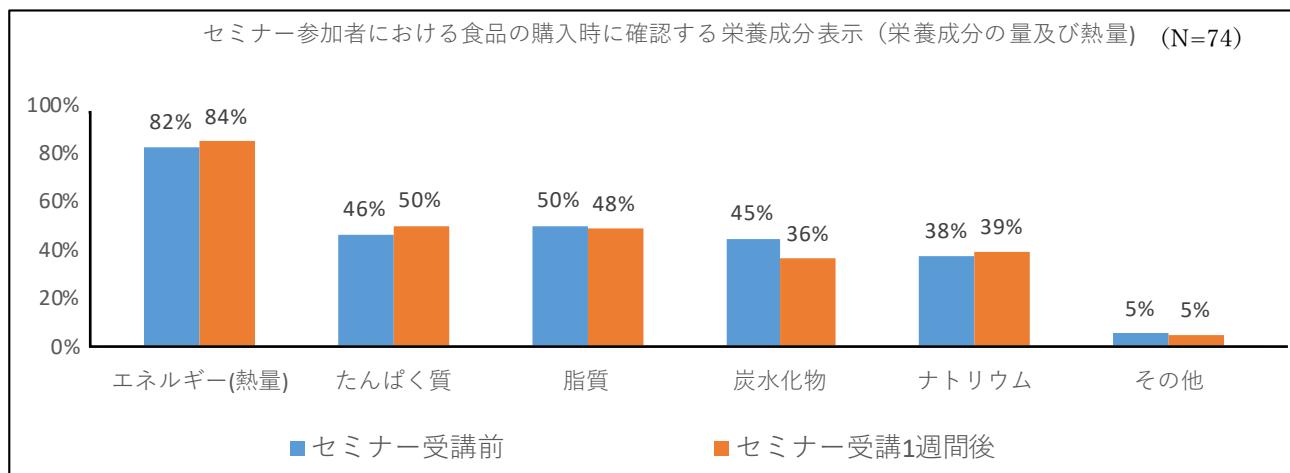


図 25 セミナー参加者における食品の購入時に確認する栄養成分表示 (栄養成分の量及び熱量)

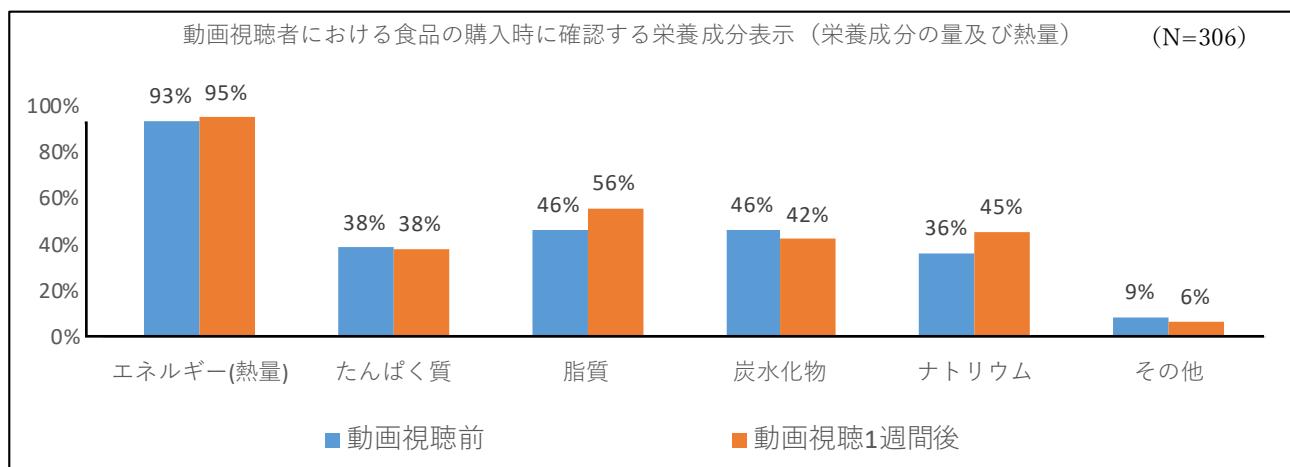


図 26 動画視聴者における食品の購入時に確認する栄養成分表示 (栄養成分の量及び熱量)

(結果)

- ・食品の購入時における栄養成分表示を「いつも参考にしている」「ときどき参考にしている」と回答するセミナー参加者及び動画視聴者いずれにおいても、セミナー受講前に比較し、受講 1 週間後で食品の購入時に確認する栄養成分表示(熱量及び栄養成分)を回答する者が多かった。

III. 本事業全体考察

本事業では、地元企業や地域密着型の医療機関、地域で活躍する管理栄養士・栄養士、健康アプリとの連携を図り、動画プログラムにより消費者が栄養成分表示を知ってもらい、ふだんの食生活における食品選択の場面で有効に活用している者を増やすことを目的とした。

事業内容としては、動画プログラムを作成し、普及啓発モデルの検証を行った。検証のためのアンケート調査（受講前／直後／1週間後）を実施した。アンケート調査からは、動画プログラムが消費者の栄養成分表示に対する理解度や食品の購入時の栄養成分表示の活用に繋がる可能性が一部の結果から示唆されたものの、検証までの期間が限られていたこと、アンケート調査（受講前／直後／1週間後）にすべて回答できた者のみを評価したこと、対象者の特性により得られた結果の傾向が異なることに留意すべきである。

その一方で、動画プログラムの作成や栄養ケア・ステーションとの連携にあたり、公益財団法人日本栄養士会に協力を得た。また、普及啓発モデルの検証にあたり、数多くの施設及びその担当者の協力を得た。このように本事業は、多くの利害関係者との連携があつてこそ、遂行することができた。健康アプリ上での動画プログラムの視聴など、単独での普及啓発が可能であることが特徴の一つでもあるが、今後、動画プログラムの利活用を通して、多くの利害関係者間での連携が深まることにより、国民のより一層の栄養成分表示の理解度の向上や行動変容に繋がることを期待したい。

動画プログラム作成についての考察

動画プログラムの内容を検討した段階では、栄養成分表示を説明する基本編に加え、ライフステージごとに高齢者世代、若年女性世代、働く世代、及び幅広い世代に向けて4つのテーマを検討していた。しかしながら、栄養成分表示をどのように活用し、健康的な食生活に役立てることができるのかを検討した際に、例えば、高齢者では疾病の有無などによって個別性が高いこと、若年女性を想定して鉄の摂取を推進しようとしても栄養成分表示における鉄の位置付けは義務表示事項（熱量、たんぱく質、脂質、炭水化物、食塩相当量）でなく、任意表示事項であること等の制約があることにも配慮が必要であるため、最終的に3つのテーマ（若い世代、働く世代、幅広い世代）とした。

また、本事業でセミナーの講師を務めた管理栄養士・栄養士からは、動画プログラムについて「短時間でわかりやすくポイントがまとめられており理解しやすい」、「栄養ケア・ステーションの介護予防活動で使いたい」、「学生向けの講義でも使わせてほしい」等の感想があった。動画プログラムは、地域で活躍する管理栄養士・栄養士によって更なる利活用が期待できる。

セミナーの実施についての考察

セミナー参加者の募集

セミナーについては、実地及びオンラインでの開催を企画していたが、新型コロナウイルス感染症拡大や集客時期が短期間となった影響を受けて、一部の実地での開催は中止となった。その一方で、健康アプリを通じた宣伝や、本事業の目的に賛同した企業や施設職員からチラシ配布、スーパーマーケット専用アプリや会員サイトからの告知などの協力を得ることで、集客数は当初計画していた数（オンラインでの開催230名、実地での開催30名）に及ばなかったものの、実際のセミナー参加者は155人（オンラインでの開催135名、実地での開催20名）を確保することができた。今後の普及啓発においては、自治体等と連携して取り組むなど、より一層の集客方法の工夫が求められる。また、オンラインのみに

による普及啓発とする場合、高齢者におけるパソコンの普及率や日常での使用状況等が影響することを考慮する必要がある。

他方、今回の普及啓発モデルの検証において、企業における従業員向けのセミナーも実施したところ、従業員からは、消費者に対する栄養成分表示の普及啓発にも意欲的な意見が多く挙げられた。そのため消費者への直接的な働きかけだけでなく、健康づくりの担い手となり得る食品関連事業者に対して普及啓発を図ることも、効果的な手段となり得る可能性がある。

講師

食品表示に関する動画プログラム3本を使用した普及啓発モデルの効果を検証するため、地元企業や地域密着型の医療機関、地域で活躍する管理栄養士・栄養士に講師を依頼した。それぞれ、日頃の栄養相談などの業務の経験や特性を活かしてもらい、セミナーを実施した。

動画プログラムでは、セミナーに向けた準備時間が短縮されたこと、均質化された内容を提供できること等の利点が上げられる。また今回のセミナーはオンラインでの開催を中心に実施したことでも特徴であったが、オンラインでの開催を担当した講師から「オンラインでのセミナー開催は初めての試みで準備期間がもっと欲しかった」、「参加者の表情や反応が分かりにくかった」、「講師と参加者のコミュニケーションを取る時間がもう少しあっても良かった」との意見もあった。実際の食品を画面上で見せながら話すこと、ウェブ会議システムのリアクション機能を活用すること等、セミナー中におけるコミュニケーションの取り方にも更なる工夫が求められる。

アンケート調査実施についての考察

アンケート調査は当初、セミナー開催前、開催直後、2週間後の実施を予定していたが、アンケート調査の回収率を上げるために、セミナー2週間後から1週間後へアンケート調査を実施するタイミングを変更した。また、セミナー1週間後のアンケート調査はメールでのリマインドを実施するなど、回収率を上げるために工夫を行った。しかしながら、セミナー参加者のアンケート調査の回収率は50%以下となった。アンケート調査結果より、栄養成分表示を「ときどき参考にしている」者の割合はわずかに上昇したが、大きな変化は見られなかった。ふだんの食生活において栄養成分表示を「あまり参考にしていない」「全く参考にしていない」者の割合は、セミナーの開催前と比べ1週間後では、「確認するのが面倒」という理由が半数程度減少した。この結果から、セミナーへの参加は、消費者が食品購入をする際に、栄養成分表示を確認する機会の増加につながることが期待される。しかしながら、食品選択場面における行動変容にまで影響を与えることができたのかは、今回の検証では明らかにできなかった。

その一方で、健康アプリ上での動画視聴者を対象としたアンケート調査では、アンケート調査の回収率は20%以下であった。セミナーの開催に比較して、講師等によるコミュニケーションがないために、アンケート調査の回収率もより低値となったことが推察された。アンケート調査結果より、栄養成分表示を「いつも参考にしている」「ときどき参考にしている」者の割合が動画プログラムを視聴する前で50%を超えていた。そのため、単に健康アプリからの視聴者は栄養成分表示を知っている者の割合が高いだけでなく、健康アプリの主な利用目的が「ダイエット」であるため、動画視聴者はすでに体重管理や健康管理への意識が高かったことが推察された。そのために動画プログラムを視聴後の認知度の変化や行動変容などにはつながらなかったのかもしれない。

今後の動画プログラムの展開

本事業における普及啓発モデルの検証を通して、以下のような動画プログラムの利活用が考えられるため、今回、検証を実施した普及啓発モデルに限らず、動画プログラムは幅広い展開が期待できる。

<普及展開先の一例>

- ・職能団体と連携したセミナーやイベントの講演で放映
- ・自治体が主体となるセミナーやイベントの会場で放映、体験型イベントの導入教材
- ・地域包括支援センター等の介護予防教室やイベント
- ・栄養、調理の専門学校やフードコーディネーター等の民間資格における講義資料
- ・スーパーマーケットのイートインスペースやイベント広場で連続して放映
- ・調剤薬局の待合スペースでデジタルサイネージのコンテンツとして放映
- ・ドラッグストアなどの健康増進に資する活動を行う企業の健康イベントの教材
- ・健康アプリのコンテンツ（コラム、WEBサイトの見出し）として配信
- ・参加者への特典を用意し、体験型健康イベントの一環として実施（実際に商品を選ぶ、等）

【別添資料】

目次

1. 動画プログラムナレーション原稿
2. セミナー講師向け研修資料
3. 講演資料（動画プログラム解説資料）
4. セミナー告知ちらし
5. セミナー運営マニュアル
6. セミナー実施報告書（ひな形）
7. アンケート調査票